熱海市温泉事業のあらまし

令和７年度版



和田木貯湯槽
（令和7年度 完成）



熱海市 公営企業部 水道温泉課

目　　次

第1章　熱 海 市 の 概 要　・・・・・・・・・・ 1

第2章　温 泉 に つ い て
1）温泉とは　・・・・・・・・・・ 2
2）療養泉の泉質の分類　・・・・・・・・・・ 3
3）温泉のメカニズム　・・・・・・・・・・ 4
4）温泉及び温泉地の効果　・・・・・・・・・・ 4
5）熱海の温泉　・・・・・・・・・・ 5
6）熱海温泉の泉質　・・・・・・・・・・ 6
7）熱海温泉組合と湯前神社秋季例大祭　・・・・・・・・・・ 7
8）熱海七湯について　・・・・・・・・・・ 8

第3章　市 営 温 泉 の 概 要
1）沿革　・・・・・・・・・・ 12
2）供給区分　・・・・・・・・・・ 12
3）供給区域と受給資格　・・・・・・・・・・ 12
4）市営源泉の状況　・・・・・・・・・・ 13
【図表】 温泉供給区域図　・・・・・・・・・・ 15

第4章　市営温泉施設の概要
1）温泉源地一覧　・・・・・・・・・・ 18
2）貯湯槽一覧　・・・・・・・・・・ 20
3）動力室･加温室(動力)一覧　・・・・・・・・・・ 21
4）主要配管系統図　・・・・・・・・・・ 24

第5章　温 泉 事 業 統 計
1）温泉料金の変遷　・・・・・・・・・・ 26
2）供給加入金の変遷　・・・・・・・・・・ 30
3）月別温泉使用量の推移　・・・・・・・・・・ 31
4）地区別及び用途別使用量　・・・・・・・・・・ 32

第6章　財　　務　　状　　況
1）比較損益計算書　・・・・・・・・・・ 33
2）性質別費用構成表　・・・・・・・・・・ 33
3）資本的収支計算書　・・・・・・・・・・ 35
4）比較貸借対照表　・・・・・・・・・・ 37
5）財務分析比較表　・・・・・・・・・・ 39
6）業務実績表　・・・・・・・・・・ 40

職 員 機 構 図（令和8年4月1日現在）　・・・・・・・・・・ 41

第１章　熱海市の概要

熱海市は伊豆半島の東側基部に位置し、前面は相模湾に臨み、背後には箱根から伊豆へ伸びる火山帯の山稜を背負った日本屈指の大温泉郷です。“太平洋に「出ず」る伊豆半島は湯出ずる国”ともいわれ、第四世紀洪積世（百万年前）から現世にかけての火山活動により、富士山・愛鷹山・箱根山とともに、伊豆においては、天城山等の火山が形成されました。そしてカルデラ状を構成する熱海火山の陥落した中心部に集落が発生し、世界にも類を見ない都市が形造られました。

熱海の四大温泉として、風光明媚な自然、歴史・文化の薫り漂う湯の街熱海が凝縮された『熱海温泉』、波静かで遠浅の海が続く海岸沿いの温泉郷『南熱海温泉』、古来より海岸の洞窟から温泉が湧き名湯で知られる「走り湯」に代表される『伊豆山温泉』、山裾深く入った山峡にも落ち着いた旅館が立ち並ぶ『伊豆湯河原温泉』（泉地区）があります。これらの温泉地は、富士・箱根・伊豆を結ぶ観光レクリエーションの中核基地としての位置を占め、豊かに湧きだす天然の温泉と四季温暖の気候条件に恵まれた常春の地として伝統ある観光温泉都市を形成しています。

●熱海市の位置

方位	地名	経緯度
極東	初島	東経　139°　10′
極西	和田山	東経　139°　01′
極南	下多賀	北緯　　35°　01′
極北	泉	北緯　　35°　09′

●熱海市の面積・広ぼう（令和8年全国都道府県市区町村別面積調）

総面積	61.70㎢
広ぼう	東西　　7.52km
	南北　13.90km

●熱海市の人口（令和8年3月31日現在）

男性	14,824人
女性	17,790人
合計	32,614人



第２章　　温泉について

１）温泉とは

わが国では、大変古くから温泉が利用されてきました。種々の伝説はもちろん、歴史的な文献である古事記、日本書紀、そして各地の風土記や絵図等、随所に温泉の利用のされ方が記されています。また、温泉めぐり（温泉浴）が体に良いことも昔から知られ、「湯治」という温泉療法は、江戸時代の医学者、貝原益軒の書にもみられます（『養生訓』巻第五、洗浴）。

ところで、「温泉」というものは、何によって定義され、その基準がどのようなものかご存じでしょうか。昔は、温泉の基準温度はその土地の平均気温より高い温度とする考え方が有力で、基準温度は地方により異なっていました。そのため、我が国では、昭和２３年に制定された温泉法で地中から湧出する際の温度が摂氏２５度以上のもの、また摂氏２５度未満であっても下記物質をいずれかひとつ以上含有していれば温泉（鉱泉）と定められました。

日本は世界有数の温泉大国で、その中でも静岡県は筆頭格です。静岡県の全温泉の約３分の１は、泉温が摂氏２５度以上で温泉水１kg中の含有成分が１，０００㎎に満たない「単純温泉」が占めています。

温泉法（令和7年6月1日 施行）
第２条による規定
１）地中から湧出すること
２）温水、鉱泉水及び水蒸気その他のガス状のもの（炭化水素を主成分とする天然ガスを除く）
３）湧出温度が摂氏２５度以上のもの、又は次にあげる物質を規定値いずれか一つ以上
（含有量・温泉水１kg中）含むこと

物質名	含有量（1Kg中）	物質名	含有量（1Kg中）
・水素イオン	1 ㎎以上	・リチウムイオン	1 ㎎以上
・メタほう酸	5 ㎎以上	・沃素イオン	1 ㎎以上
・臭素イオン	5 ㎎以上	・バリウムイオン	5 ㎎以上
・遊離炭酸	250 ㎎以上	・ヒドロひ酸イオン	1.3 ㎎以上
・総硫黄	1 ㎎以上	・ふつ素イオン	2 ㎎以上
・メタ亜ひ酸	1 ㎎以上	・第一マンガンイオン	10 ㎎以上
・ラヂウム塩	1億分の1 ㎎以上	・重炭酸そうだ	340 ㎎以上
・ラドン	20（100億分の1キュリー単位）以上	・メタけい酸	50 ㎎以上
		・ストロンチウムイオン	10 ㎎以上
・フエロ又はフエリイオン	10 ㎎以上		
・ガス性のものを除く溶存物質	総量1,000 ㎎以上		

したがって　① 源泉温度が摂氏２５度以上であれば無条件で温泉
② 摂氏２５度未満でも上記の物質を規定量含有していれば温泉となります。

2）療養泉の泉質の分類

温泉の泉質名称は、下記に掲げる療養泉（鉱泉のうち、特に治療の目的に供し得るもの）の定義を満たした温泉だけに命名されます。

療養泉の定義

- 温度(源泉から採取されるときの温度)摂氏25度以上
- 物質（以下に掲げるもののうち、いずれかひとつ）

物質名	含有量（1Kg中）
① 溶存物質（ガス性のものを除く）	総量1,000 mg以上
② 遊離二酸化炭酸（CO2）	1,000 mg以上
③ 総鉄イオン（Fe2+ ＋ Fe3+）	20 mg以上
④ 水素イオン（H+）	1 mg以上
⑤ よう化物イオン（I-）	10 mg以上
⑥ 総硫黄（S）	2 mg以上
⑦ ラドン（Rn）	8.25マッヘ単位以上

なお、泉質は含有する物質によって次の三つに大きく分類されます。

単純温泉

含有物質：① 溶存物質量（ガス性のものを除く）が１，０００mg／kg未満
泉　　温：２５度以上
泉質名称：単純温泉、アルカリ性単純温泉（pH値が８．５以上ある場合）

塩類泉

含有物質：① 溶存物質量（ガス性のものを除く）が１，０００mg／kg以上
泉　　温：規定なし
泉質名称：陰イオンの主成分により、さらに次のとおり分類される
　　塩化物泉、炭酸水素塩泉、硫酸塩泉

特殊成分を含む療養泉

含有物質：② 遊離二酸化炭酸 ～ ⑦ ラドン を含有する療養泉
泉質名称：さらに次のとおり分類される
　・特殊成分を含む単純冷鉱泉　例) 単純二酸化炭素冷鉱泉
　・特殊成分を含む単純温泉　　例) 単純二酸化炭素温泉
　・特殊成分を含む塩類泉　　例) 酸性 ― ナトリウム ― 硫酸塩泉

3）温泉のメカニズム

では、「温泉」はどのようにつくられているのでしょうか。
私たちが入浴している温泉のほとんどは、雨や雪が地中に染み込んで、何年か後に温度や成分などを得て、再び地上に出できた「循環水」であると言われています。
温泉は「火山性の温泉」と「非火山性の温泉」に大別でき、非火山性の温泉は「深層地下水型」と「化石海水型」などに分類することができます。

火山性温泉		地表に降った雨や雪の一部が地中にしみ込んで地下水となり、マグマ溜りの熱（1,000℃以上）で温められ、断層等の地下構造や人工的なボーリングなどによって地表に湧き出したものをいう。マグマのガス成分や熱水溶液などが混入したり、流動中に岩石の成分を溶解することなどにより、温泉の様々な泉質が形成されると考えられている。
非火山性温泉	深層地下水型	地下では、深度が深くなるほど地温が上昇し、一般的に100ｍごとに温度が約３℃ずつ上昇すると言われている（地下増温率）。また、マグマが冷えた高温の岩石が地下にあるケースがある（高温岩帯）。降水によりしみ込んだ地下水がこれらの地熱により温められたものをいう。
	化石海水型	太古の地殻変動などで古い海水が地中に閉じ込められている場合がある（化石海水）。これらが地表から数百メートルにある場合には、地下増温率によってそれほど高温とはならないが、水温が25℃未満でも、化石海水は塩分を多量に含んでいるので、温泉法で規定した温泉に該当する。

4）温泉及び温泉地の効果

温泉地の効果	温泉そのもの	物理的効果	温熱	新陳代謝の促進・自律神経の調整。
			浮力	体重が軽くなり、入浴中の運動が容易になる。
			水圧	循環器系及び筋肉骨格系の鍛錬。
		成分効果		泉質により現れる効果。皮膚、皮下組織、筋肉などの細胞に作用すると同時に、神経系にも作用する。
		変調効果		体内に吸収された温泉成分の刺激や、反復して温泉に入浴することによって受ける刺激によって神経系機能や内分泌機能を調整する。
	温泉以外の効果因子	転地効果		温泉地へ移動することで地形・気候などの環境が変わり、精神安定作用と鎮静効果。
		食事効果		規則正しい食事や栄養バランスのとれた食事による効果。
		運動効果		散歩やジョギングなど適度な運動による効果。
		休養効果		入浴や運動後の休養による効果。

５）熱海の温泉

西暦７５７～７６５年頃、箱根権現の万巻上人が、海中に湧く温泉を熱海の中腹に導き漁民及び魚介類を救おうと祭壇を設け、薬師如来に祈祷し、現在ある間歇泉の地に泉脈を移し、守護神の社（湯前神社）をつくり、一般の人々が温泉の恩恵に浴することができるようにしたことが、熱海温泉の由来と記されています。

戦国の乱世が終わり、天下泰平の時代となった江戸時代には、将軍・大名や武士の支配階級から農民・職人・商人などの庶民にいたるまで、温泉に入浴して病気などを治す湯治が全国的に盛んになりました。江戸に近い熱海温泉には多くの大名が湯治に訪れており、本陣であった今井家の宿帳には、１６２９（寛永６）年から幕末の１８４５（弘化２）年までの２００年余りの間に、全国の城主６５名が来湯した記録が残っています。

明治中期には、平均で１週間滞在していた湯治客は、次第に中産階級の保養客へと性格を変え、宿泊形態も自炊中心から徐々に伺い式・宿賄い式へと食事を提供する形へ変わるようになりました。熱海への交通は１９２５（大正１４）年の国鉄熱海線の全線開通により東京と３時間で結ばれ、近接性が強まりました。大正期には高台の傾斜地等に別荘分譲が広く開発されていました。

昭和初期の熱海温泉鳥瞰図を見ると、町の中心部に３層の有力旅館が立ち並び、すでに海岸部は埋め立てによる土地造成が完成しています。１９３４（昭和９）年に丹那トンネルが完成し、東海道本線が通るようになると熱海温泉の地位は一層高まり、旅館は９５件、宿泊客は３３万人を数えました。旅館は３分の２が３階以上の建物となり、収容人員も１００人を超えるような大規模化が進みました。同時に温泉の乱開発も著しくなってきたので、熱海町（現在の熱海市）当局は財産区有温泉を中心に１６源泉を町有化して温泉供給事業を始めました。



湯前神社

６）熱海温泉の泉質

現在の熱海温泉の泉温は４２℃以上の高温泉が全体の約９０％を占め、泉質については、塩化物泉が約６０％、硫酸塩泉が約３０％、単純泉（アルカリ性含む。）が約１０％となっており、東海道線を境に海側へ行くほど塩化物泉の源泉が多くなります。また、塩化物イオンが多く含まれているため、塩分が皮膚を覆い、保温効果に優れているので疲労回復はもとより、下記の適応症（温泉療養を行ってよい病気や症状）に効果があります。

一般的適応症（泉質を問わず共通する）

- 冷え性、末梢循環障害
- 胃腸機能の低下
- 軽症高血圧
- 糖尿病
- 軽い喘息または肺気腫
- 痔の痛み
- 軽い高コレステロール血症
- 自律神経不安定症
- ストレスにおける諸症状
- 病後回復期
- 疲労回復、健康増進
- 筋肉もしくは関節の慢性的な痛みまたはこわばり
  （関節リウマチ、腰痛症、変形性関節症、神経痛、五十肩、打撲、捻挫等の慢性期）

泉質別適応症

泉　質	浴　用	飲　用※
単純温泉	うつ状態、不眠症	単純温泉については、泉質別適応症が定められていません
塩化物泉	きりきず、うつ状態、皮膚乾燥症	萎縮性胃炎、便秘
硫酸塩泉	塩化物泉に同じ	胆道系機能障害、高コレステロール血症、便秘

※　**市営温泉で供給している温泉は飲用ではありません。**

禁忌症について

禁忌症とは、１回の温泉入用または飲用でもからだに悪い影響をきたす可能性がある病気・病態のことです。温泉の一般的禁忌症（浴用）は以下のとおりです。

- 病気の活動期（特に熱のある場合）
- 活動性の結核
- 進行した悪性腫瘍
- 慢性の病気の急性増悪期
- 高度の貧血など身体衰弱の著しい時
- 重い心臓・肺・腎臓の病
- 消化管出血、目に見える出血

７）熱海温泉組合と湯前神社秋季例大祭

熱海温泉組合は熱海市街地を中心に、泉・伊豆山・南熱海（多賀・網代）地区に分布する温泉資源の保護と育成のため、大正１４年１１月２３日、静岡県知事より設立認可を受けました。以後約９０年の事業実績と１５０余名の組合員（源泉所有者等）で構成されており、熱海市もその一員となっています。

主要な事業は、以下のとおりです。

① 温泉保護並びに合理的利用の指導
② 温泉に関する講演会並びに講習会の開催
③ 行政庁の行う調査研究並びに講習会の開催
④ 温泉諸申請の行政庁への提出及び意見の上申
⑤ 行政庁及び関係団体への建議折衝連絡
⑥ 静岡県温泉協会の事業に関する協力
⑦ 温泉台帳の整備管理及び温泉に関する必要資料の作成保存
⑧ 組合の発展向上に必要な事業及び組合員並びに温泉関係者の表彰等
⑨ 温泉組合会報の発行及び温泉調査実態一覧表の作成
⑩ 湯前神社振興事業他の実施

この中で、湯前神社秋季例大祭は１０月の第１日曜日に開催されます。（前日に宵宮祭）

徳川幕府四代将軍徳川家綱の時代（１６６７）に大湯の温泉を真新しい桧の湯樽に汲み、それを頑強な男数人が担ぎ、武士の警護の下「御本丸御用」の朱色の日の丸旗をたてて、昼夜兼行で１５時間も走り、江戸城へ献上されたといわれています。

その風景から、「熱海よいとこ日の丸たてて　御本丸へとお湯が行く」という唄が生まれました。

その後、湯樽は船で運ばれるようになり、八代将軍徳川吉宗の時代に最盛期を迎え、１７２６（享保１１）年から約１０年の間では、3,６００樽以上も送ったと伝えられています。





湯前神社秋季例大祭の様子

8）熱海七湯について

熱海に古来から数多くある源泉の中でもその名を知られ、熱海温泉の歴史で重要な位置を占めてきたのが『熱海七湯』です。当時の様子は、江戸時代の資料や文献等により知ることができますが、熱海市では、平成９年に市制６０周年事業の一環として、本市の温泉の歴史を築いてきた『熱海七湯』の整備を行い情緒豊かな当時の熱海温泉の再現を図りました。

『熱海七湯』とは、以下、七つの湯を指しますが、当時の温泉施設を復元したモニュメントであり、自然湧出時代の痕跡はとどめていません。

1. 佐治郎の湯（目の湯）
2. 清左衛門の湯
3. 小沢の湯（平左衛門の湯）
4. 風呂の湯・水の湯
5. 河原湯
6. 野中の湯
7. 大湯



七湯　についてのお問合せ先

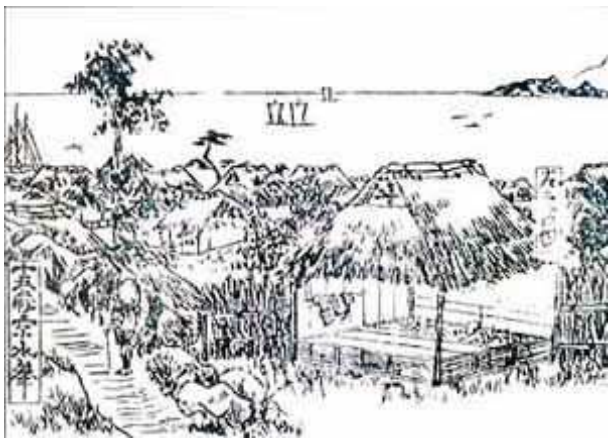
1.～6.　公園緑地課 維持管理室
（電話：0557-86-6218）

7.大湯　生涯学習課 文化交流室
（電話：0557-86-6234）

１．佐治郎の湯・目の湯（さじろうのゆ・めのゆ）

昔の仲町、今の銀座町にあった医王寺の門前にあり、佐治郎という者の邸内にあったことから『佐治郎の湯』と言われました。

この湯は、塩分が少なく真湯に近いことから火傷や眼病によく効くと言われ、別名『目の湯』とも言われています。［所管課：熱海市公園緑地課］



昔



現在

２．清左衛門の湯（せいざえもんのゆ）

今の東海岸町、古屋旅館の路傍にあり、菊岡占涼の熱海誌によると、「浜町の北裏天神社の後にあり」と記載されており、昔、農民の清左衛門という者が馬を走らせてこの湯壺に落ちて焼け死んだので、その名がついたと言われています。

明治までは、昼夜常に湧き出て絶える事がなく、人が「清左衛門ぬるし」と大きな声で呼べば大いに湧き、小さな声で呼べば小さく湧き出たと言われていました。現在は整備され、湯けむりを上げ温泉の風情が感じられます。［所管課：熱海市公園緑地課］



昔

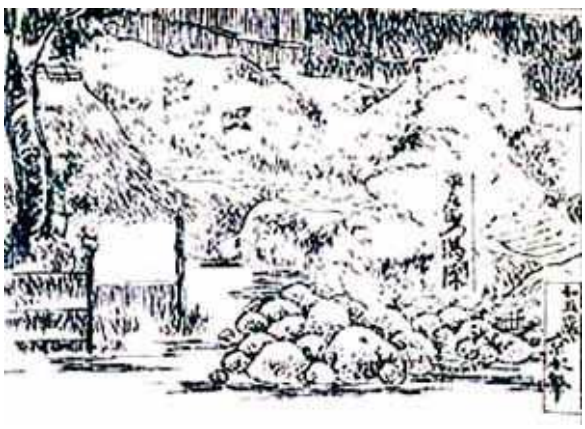


現在

３．小沢の湯・平左衛門の湯（こさわのゆ・へいざえもんのゆ）

昔の小沢町、熱海温泉通りに所在の、沢口弥左衛門、藤井文次郎、米倉三左衛門の庭の湯を『平左衛門の湯』と呼んでいましたが、土地の人は小沢町にあったので『小沢の湯』とも呼んでいました。『清左衛門の湯』と同様に、人が大きな声で呼べば大いに湧き、小さな声で呼べば小さく湧き出たと言われています。現在でも市営温泉として利用されており、湯けむりを上げ温泉の風情が感じられます。

『小沢の湯』では高温の蒸気を利用し、温泉ゆでたまごを作ることができます（ご利用の際は、生たまごをご持参いただく必要があります）。［所管課：熱海市公園緑地課］



昔



現在

４．風呂の湯・水の湯（ふろのゆ・みずのゆ）

『風呂の湯』は、福島屋旅館の西側、昔の坂町高砂屋 大木円蔵の庭から湧き出ていました。この湯は外傷によいと言われ、また湯気の噴き出しが盛んであったため、饅頭を蒸したり酒を温めたりして販売していました。

その『風呂の湯』から１．５mほど東のところには、塩分のない温泉も湧き出ていました。温度も低かったことから、明治１１年大内青巒の書「豆州熱海誌」では、「淡白無味常水を温めるもののの如し」と記されており、『水の湯』の名前の由来とされています。［所管課：熱海市公園緑地課］



昔



現在

５．河原湯（かわらゆ）

銀座通りを海に下がった国道１３５号（上り）との交差点辺りのお湯を『河原湯』と称しました。この付近は東浜と言われ、道もなく石がごろごろした河原でありましたが、温泉が絶えず豊富に湧き出ていて、熱海村の農民や漁師、近郷の人達が自由に入浴できる唯一の温泉入浴場でした。湯治客には主に『大湯』の源泉が使われ、他の源泉も限られた家のみが使用していたからです。

寛文６年（１６６６）、小田原城主 稲葉美濃守が村民のために浴室を設けて、その屋根を瓦葺としたため『瓦湯』と称したという言い伝えもあります。この湯は、人が入ると透明な湯が白く濁るほど塩分が強く、冷え性や神経痛のリウマチ等に効能があるとされています。［所管課：熱海市公園緑地課］



昔

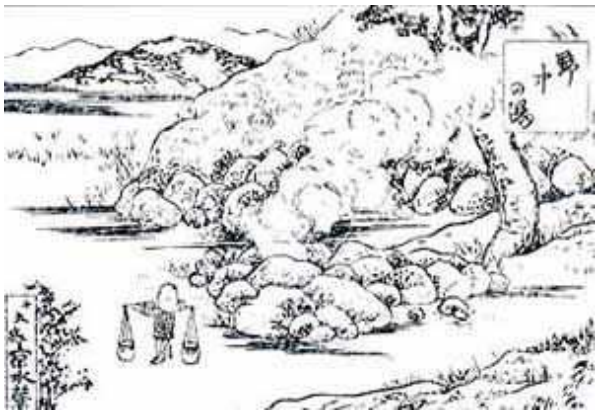


現在

６．野中の湯（のなかのゆ）

熱海の中心部の北、湯前神社の背後にある山を野中山と言い、この麓、野中（現在の藤森稲荷一帯）辺りでは温泉が湧出していました。この一帯は、泥の中に湯がブクブク噴いて、杖で突くと湧き出したと言われています。また、このあたりの土は丹（赤色の土）のようで、壁を塗る高級な壁土として利用されていました。

江戸時代までは、この『野中の湯』はあまりに高温だったため、入浴には不向きとされていたようです。現在では、咲見町地内の民間マンション（中銀ライフケア咲見）の敷地内に「野中湯蒸気温泉」として整備され、湯けむりが立ち上がっています。［所管課：熱海市公園緑地課］



昔



現在

７．大湯（おおゆ）

『大湯』は、上宿町のニューフジヤホテルアネックスと湯前神社の間にあり、太古からの自噴泉で、世界の三大間欠泉の一つに数えられるほど世界的にも有名な間欠泉でした。

江戸時代には、熱海温泉の湯元で湯桝を設け、今井半太夫外２０軒が湯屋を営んでいました。大湯の噴出は昼夜６回で、湯と蒸気を交互に激しい勢いで噴出し、地面が揺れるようであったといわれています。大正時代初期までは、規則正しく多量の熱湯を噴き上げていましたが、関東大震災（大正１２年）後には徐々に噴出が衰え、昭和初期には止まってしまいました。

昭和３７年、熱海市により人工的に噴出する間歇泉として再整備され、昭和５２年には市の文化財として指定され、現在に至っています。［所管課：熱海市生涯学習課］



昔



現在

第３章　　市営温泉の概要

１）沿革

市営温泉は、昭和１１年（１９３６）７月１日に町営温泉として事業許可を受けて発足し、翌年の市制施行と同時に市営温泉としての運営を開始しました。昭和２６年には西山地区の私有温泉組合を統合するなど次第に拡充し、昭和３２年には「地方公営企業法」を適用、更に昭和３４年の機構改革によって公営企業部が設置され、独自の事業を司る体制が確立されました。我が国には温泉が湧出する市町村は数多くありますが、本市のように温泉事業を経営する市町村はごくわずかです。

２）供給区分

令和８年３月現在における市営温泉の源泉数は５９（使用源泉４１、休止等源泉１８）を数えます。市営源泉には、熱海市が独自に掘削したものや買収したもの、寄付を受けたものなどがあります。市が管理している温泉は、熱海市温泉条例（昭和４８年４月１日施行 条例第３号）に基づいて供給されており、この条例による温泉の供給は、用途では一般家庭で使用する「自家用」、ホテル・旅館等の「営業用」のほか「共同用」、「団体用」があり、種類では「普通供給」と期間を限定し供給を受ける「臨時供給」に分けられています。このうち給湯件数が多いのは「自家用」と「営業用」ですが、大部分は一般家庭、別荘、会社の寮・保養所等であり、ホテル・旅館等は件数では少数ですが、供給量は多くなっています。

なお、令和７年度においては、年間揚湯量８０８，２５６㎥のうち約５４．３％にあたる４３８，８８２㎥が給湯されています（１，１６２件）。

３）供給区域と受給資格

市営温泉の供給区域は、熱海地区、南熱海地区及び泉地区ですが、この区域内に居住すること、又は家屋、温泉を供給する施設や設備を所有することが温泉供給の条件となっています。

新たに温泉の供給を希望する場合、温泉供給許可申請書を市に提出し、審査による供給決定を受け、供給加入金（この額は用途・種別・容積によって異なる。）の納入後、許可書が交付されます。供給装置を設置した後、温泉供給が開始される流れとなります。温泉の供給は、水道と同様に昼夜を通して行われており、計量制により温泉料金の算定が行われます。

４）市営源泉の状況

１．泉　温

泉温については、令和８年２月に市営源泉(共有含む、休止等を除く)で測定した３１井のうち、最高温度は約９３．０℃であり、５０℃以上の高温泉は２６井（約８３．９％）を占めていることから、全国有数の高温泉地域といえます。

最高温度	古　河　湯	９３．０℃
最低温度	南湯河原２号湯	４０．０℃

２．湧出量

湧出量については、令和８年２月に市営源泉(共有含む、休止等を除く)で測定した３１井のうち、７０ﾘｯﾄﾙ/分以上の源泉は１４井あり、２０ﾘｯﾄﾙ/分以下の源泉は１井あります。また、市営源泉全体の平均湧出量は約７２．６ﾘｯﾄﾙ/分です。

熱海市の機械揚湯の方式としては、「エアーリフト方式」と「水中ポンプ方式」があり、令和７年度現在では、「エアーリフト方式」が約６６％を占めています。

「エアーリフト方式」とは、圧縮空気を井戸孔へ吹き込み、温泉と空気の混合流体として地表に取り出す方法です。装置が簡単であるため広く普及していますが、空気を送り込むことにより含有物の酸化を生じ、「**スケール（湯の華）**」と呼ばれる含有物が揚湯管に付着しやすく効率が悪いため消費電力が大きいというデメリットもあります。このためスケールが付着しにくく、かつ騒音や振動の少ない「水中ポンプ方式」への切り替えを進めています。

最大湧出量	第１和田木湯	１８０．０ﾘｯﾄﾙ/分
最低湧出量	青　沼　湯	２５．０ﾘｯﾄﾙ/分

３．深　度

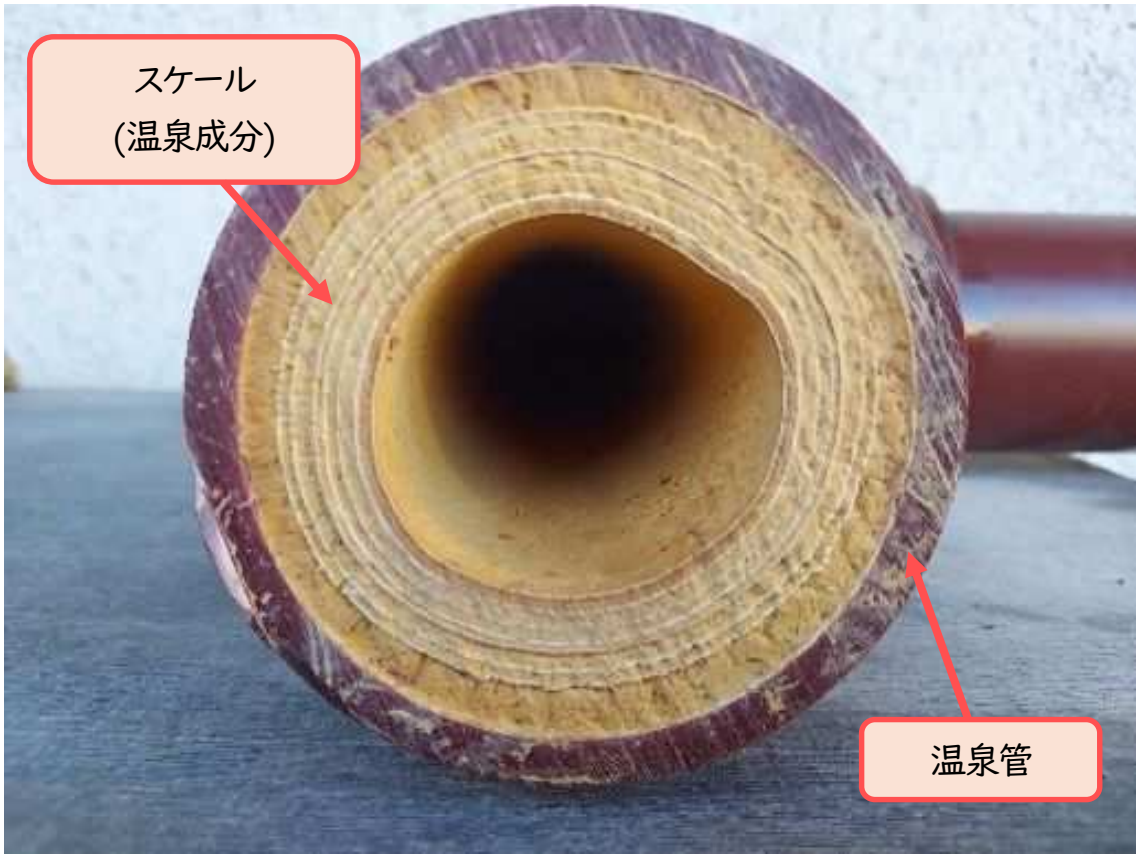
市営源泉の最高深度は６０５．９ｍですが、近年では技術の進歩により１，０００ｍを超える大深度の掘削が可能となりました。１，０００ｍを超える大深度まで降水が浸透するには、５０年～１００年以上という非常に長い時間を要します。熱海の温泉は千年余の間、安定した温泉を供給する泉脈をもっていますが、温泉を末永く利用するためには、無理な揚湯を行わないこと、涵養源となる地域を保護することが必要となります。

最高深度	第４八幡山湯	６０５．９ｍ
最低深度	藤　井　湯	７９．４ｍ

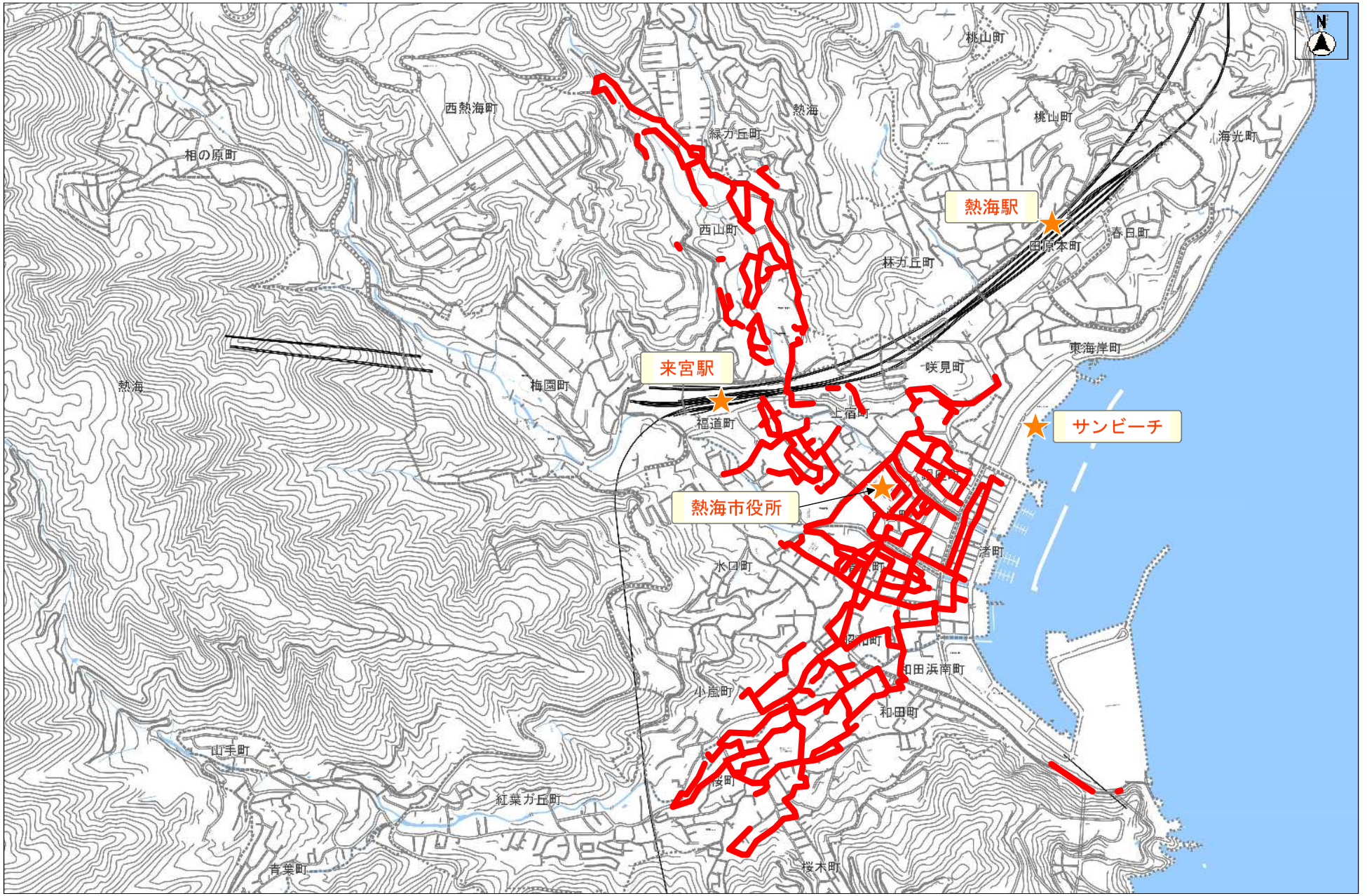
４．その他

市営温泉の源泉は高温で湧出量が豊富である反面、維持管理の面では経費のかかる源泉と言うこともできます。特に塩化物イオンが多く含まれる塩化物泉は、保温効果に優れ、疲労回復にも適しているといわれていますが、化学物質が多く含まれることにより「**スケール（湯の華）**」と呼ばれる温泉成分がポンプや温泉管に付着しやすく、それにより設備の劣化が早くなります。

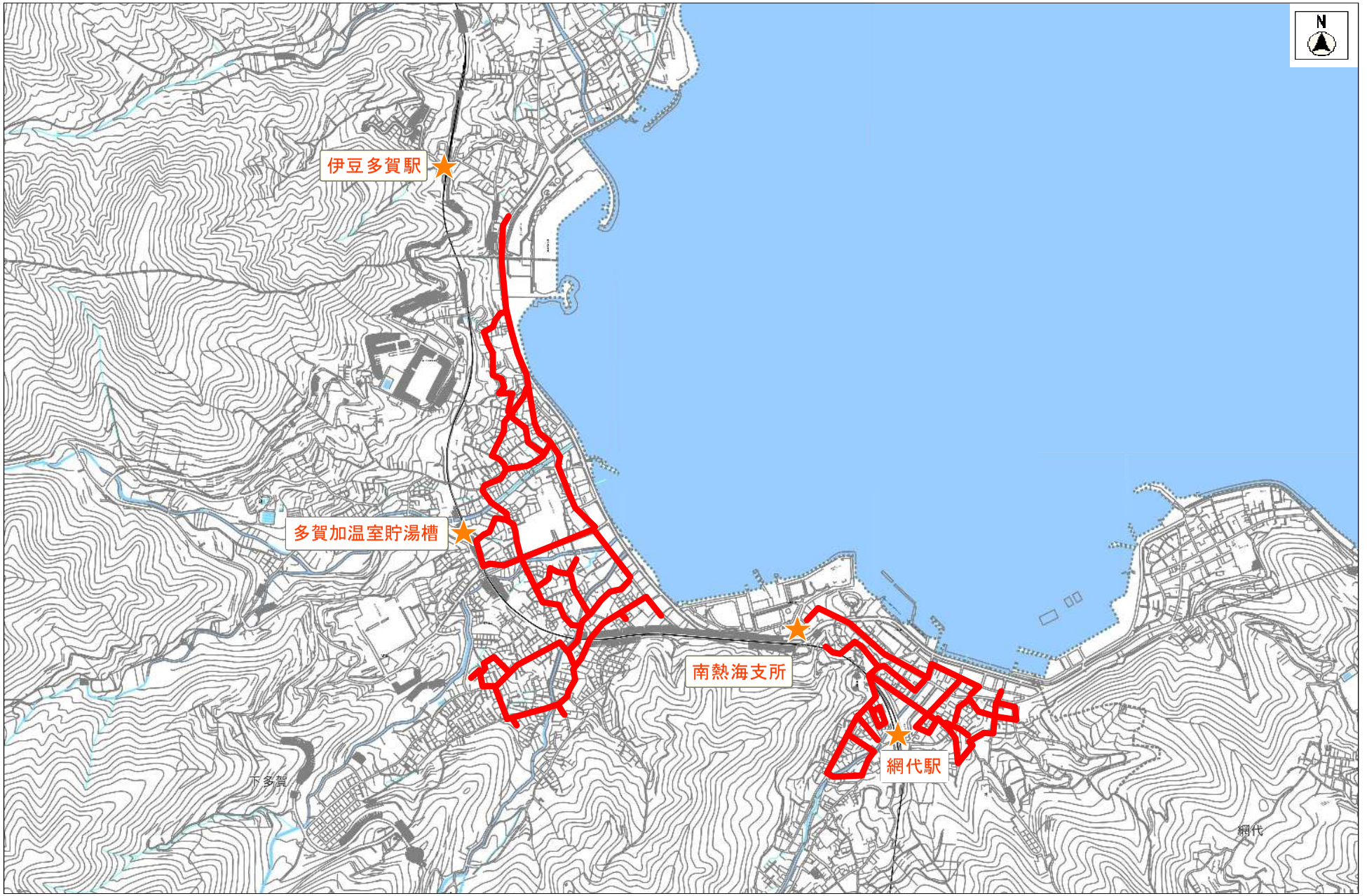
スケール（湯の華）が付着した温泉管



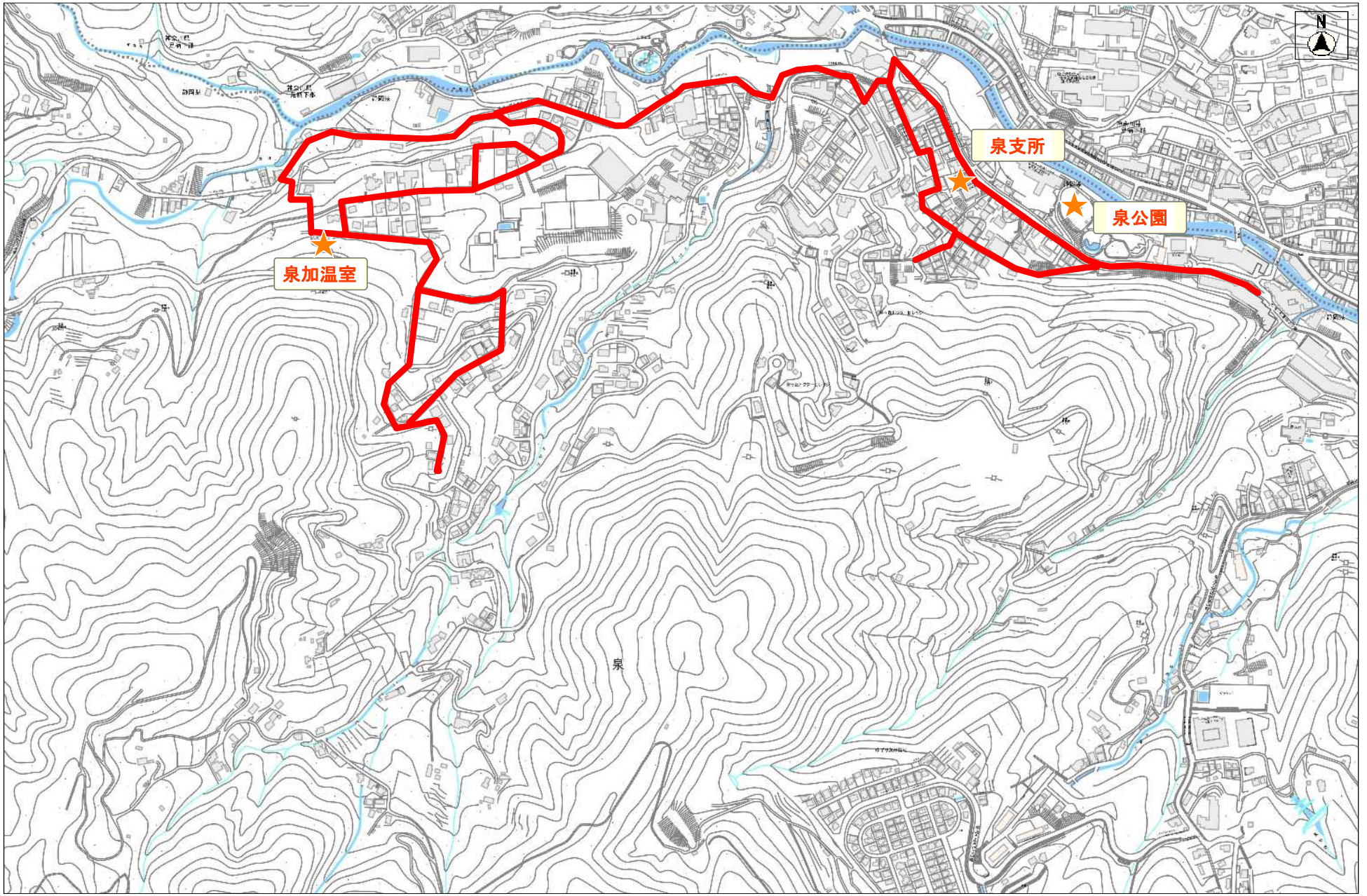
温泉管路網図（熱海地区）


N
熱海駅
来宮駅
サンビーチ
熱海市役所
西熱海町
相の原町
熱海
緑ガ丘町
西山町
梅園町
福道町
桃山町
林ガ丘町
春日町
海光町
東海岸町
咲見町
上宿町
渚町
水口町
和田浜南町
和田町
小嵐町
山手町
紅葉ガ丘町
青葉町
桜木町

温泉管路網図（南熱海地区）



温泉管路網図（泉）



第４章　市営温泉施設の概要

１）温泉源地一覧

【　熱　海　地　区　】　　（令和8年2月現在）

	源泉名	所在地	温度（℃）	湧出量（ℓ/分）	ｹｰｼﾝｸﾞ径（A）	動力（kw）	井戸深さ（m）	備　考
市有	1　青木湯	上宿町 448-9	88.0	56.0	80	3.7	137.0	油冷式ｺﾝﾌﾟﾚｯｻｰ
	2　青沼湯	上宿町 491-3	88.0	25.0	80	3.7	116.2	油冷式ｺﾝﾌﾟﾚｯｻｰ
	3　古河湯	咲見町 1999-12	93.0	49.0	80	3.7	149.4	油冷式ｺﾝﾌﾟﾚｯｻｰ　引湯権 3/4
	4　野村湯	上宿町 447-3	＊	＊	80	3.7	109.0	油冷式ｺﾝﾌﾟﾚｯｻｰ　引湯権 39/40　未使用
	5　小麦田湯	清水町 393-18	58.0	60.0	80	5.5	213.0	水冷式ｺﾝﾌﾟﾚｯｻｰ
	6　成瀬湯	上宿町 530-4	76.0	131.0	80	7.5	290.0	水冷式ｺﾝﾌﾟﾚｯｻｰ
	7　第１野中山湯	上宿町 521-4	91.0	74.0	80	7.5	265.0	空冷式ｺﾝﾌﾟﾚｯｻｰ
	8　第４野中山湯	咲見町 2002-80	91.0	71.0	80	7.5	294.9	空冷式ｺﾝﾌﾟﾚｯｻｰ　引湯権 1/2
	9　第１渚湯	渚町 346-11	51.0	55.0	80	3.7	360.0	水冷式ｺﾝﾌﾟﾚｯｻｰ
	10　釜ヶ根湯	熱海 1993-377	52.0	78.0	80	3.7	493.5	水中ﾎﾟﾝﾌﾟ
	11　第４八幡山	熱海 1992-1	47.0	76.0	80	11.0	605.9	空冷式ｺﾝﾌﾟﾚｯｻｰ
	12　第３小嵐湯	桜木町 1961-43	52.0	65.0	80	5.5	495.0	水中ﾎﾟﾝﾌﾟ
	13　第５小嵐湯	桜町 1613-10	64.0	50.0	100	3.7	550.0	水中ﾎﾟﾝﾌﾟ
	14　第６小嵐湯	桜町 1610-3	59.0	90.0	100	3.7	445.7	水中ﾎﾟﾝﾌﾟ
	15　来の宮湯	西山町 586-2	91.0	160.0	80	7.5	255.8	空冷式ｺﾝﾌﾟﾚｯｻｰ
	16　楠　湯	西山町 572-13	91.0	64.0	80	7.5	264.0	空冷式ｺﾝﾌﾟﾚｯｻｰ
	17　山田湯	西山町 601-8	86.0	48.0	80	7.5	462.0	空冷式ｺﾝﾌﾟﾚｯｻｰ
	18　西山湯	西山町 635-4	88.0	54.0	80	7.5	431.8	空冷式ｺﾝﾌﾟﾚｯｻｰ
	19　立石湯	西山町 592-3	93.0	74.0	80	7.5	486.0	空冷式ｺﾝﾌﾟﾚｯｻｰ
	20　第２日本鋼管湯	西熱海町 1-635-28	86.0	65.0	80	11.0	488.0	空冷式ｺﾝﾌﾟﾚｯｻｰ
	21　長田湯	西山町 2002-43	92.0	74.0	80	7.5	300.0	空冷式ｺﾝﾌﾟﾚｯｻｰ　引湯権 1/2
	22　大槻湯	西山町 629-2	66.0	62.0	100	3.7	600.0	水中ﾎﾟﾝﾌﾟ
共有	23　八方苑湯	水口町 829-19	68.0	76.0	100	3.7	339.0	水中ﾎﾟﾝﾌﾟ　持ち分 1/2
	24　第２野中山湯	咲見町 2002-48	90.0	65.0	100	5.5	194.0	油冷式ｺﾝﾌﾟﾚｯｻｰ　持ち分 6.5/10
	25　第２渚湯	渚町 343-6	＊	＊	65	3.7	232.0	水冷式ｺﾝﾌﾟﾚｯｻｰ　持ち分 1/2　未使用
	26　曽我湯	小嵐町 1560-3	50.0	57.0	80	3.7	352.0	水中ﾎﾟﾝﾌﾟ　持ち分 8/10
	27　錦館湯	水口町 1051-5	68.0	125.0	100	3.7	294.0	水中ﾎﾟﾝﾌﾟ　持ち分 4/5
借用	28　第２山科湯	清水町 1038-8	59.0	60.0	80	5.5	280.0	油冷式ｺﾝﾌﾟﾚｯｻｰ
	29　一ふじ湯	咲見町 213-14	42.0	55.0	165	7.5	243.2	水冷式ｺﾝﾌﾟﾚｯｻｰ
貸付	30　高校源泉	桃山町 978-1	－	－	－	－	－	
	31　第２八幡山	熱海 1990-12	－	－	－	－	－	引湯権 3/10

【 熱 海 地 区 】　　（令和8年2月現在）

	源泉名	所在地	温度（℃）	湧出量（ℓ/分）	ケーシング径（A）	動力（kw）	井戸深さ（m）	備　考
休止	32 青山湯	咲見町 488-3	－	－	80	－	845.0	平成5年度
	33 米倉湯	上宿町 475-3	－	－	100	－	500.0	平成元年度
	34 大倉湯	咲見町 500-2	－	－	80	－	151.0	昭和58年度
	35 第３野中山湯	上宿町 545-22	－	－	0	－	694.7	昭和53年度
	36 福島湯	銀座町 464-2	－	－	80	－	93.5	平成元年度
	37 天神湯	銀座町 316-7	－	－	80	－	125.2	平成元年度
	38 第３竹の沢湯	西山町 1761-59	－	－	80	－	570.0	平成元年度
	39 藤井湯	上宿町 474-2	－	－	80	－	79.4	平成3年度
	40 蜂須賀湯	上宿町 507-3	－	－	80	－	122.0	平成15年度
	41 小松湯	咲見町 488-4	－	－	80	－	115.0	平成15年度
	42 黄金湯	西山町 575-6	－	－	80	－	366.0	平成11年度
	43 第４小嵐湯	桜木町 1619-12	－	－	80	－	450.0	平成20年度
	44 坂本湯	咲見町 485-6	－	－	80	3.7	116.5	平成26年度
	45 米倉湯（共有）	上宿町 475-9	－	－	80	－	88.2	平成元年度
	46 水の湯	銀座町 340-2	－	－	80	3.7	115.5	令和元年度
	47 大谷湯	水口町 855-2	－	－	80	5.5	233.5	令和2年度
	48 河原湯	銀座町 356-9	－	－	80	0.75	129.3	令和元年度
	49 小林湯	昭和町 1262-3	－	－	100	3.7	364.0	令和4年度
	50 西　湯	上宿町 448-10	－	－	80	3.7	132.5	令和3年度　引湯権 1/2
休泉	51 佐治郎湯	銀座町 360-20	－	－	80	3.7	123.5	油冷式ｺﾝﾌﾟﾚｯｻｰ　休止
	52 第２竹の沢湯	西山町 1760-3	－	－	65	7.5	360.0	水冷式ｺﾝﾌﾟﾚｯｻｰ　休止
廃止	－ 第１小嵐湯（共有）	小嵐町 1549-9	－	－	80	11.0	437.0	平成23年11月廃止
	－ 第２小嵐湯	小嵐町 1574-19	－	－	80	11.0	445.7	平成30年2月廃止

【 南 熱 海 地 区 】

	源泉名	所在地	温度（℃）	湧出量（ℓ/分）	ケーシング径（A）	動力（kw）	井戸深さ（m）	備　考
市有	53 第１和田木湯	下多賀 436-8	40.0	180.0	65	5.5	476.0	水中ﾎﾟﾝﾌﾟ
	54 第３和田木湯	下多賀 173-3	＊	＊	80	7.5	490.0	水中ﾎﾟﾝﾌﾟ　未使用
休止	55 第４和田木湯	下多賀 405-7	－	－	80	11.0	585.0	平成27年度
	56 第２和田木湯	下多賀 464-13	－	－	65	－	499.0	令和3年度

【 泉 地 区 】

	源泉名	所在地	温度（℃）	湧出量（ℓ/分）	ケーシング径（A）	動力（kw）	井戸深さ（m）	備　考
市有	57 市営泉２号湯	泉　14-12	54.0	78.0	80	11.0	486.0	空冷式ｺﾝﾌﾟﾚｯｻｰ
	58 南湯河原湯２号湯	泉　415-81	40.0	74.0	80	7.5	394.0	空冷式ｺﾝﾌﾟﾚｯｻｰ　H30 寄附採納
休止	59 市営泉１号湯	泉　429-14	－	－	80	5.0	600.0	水中ﾎﾟﾝﾌﾟ

２）貯湯槽一覧

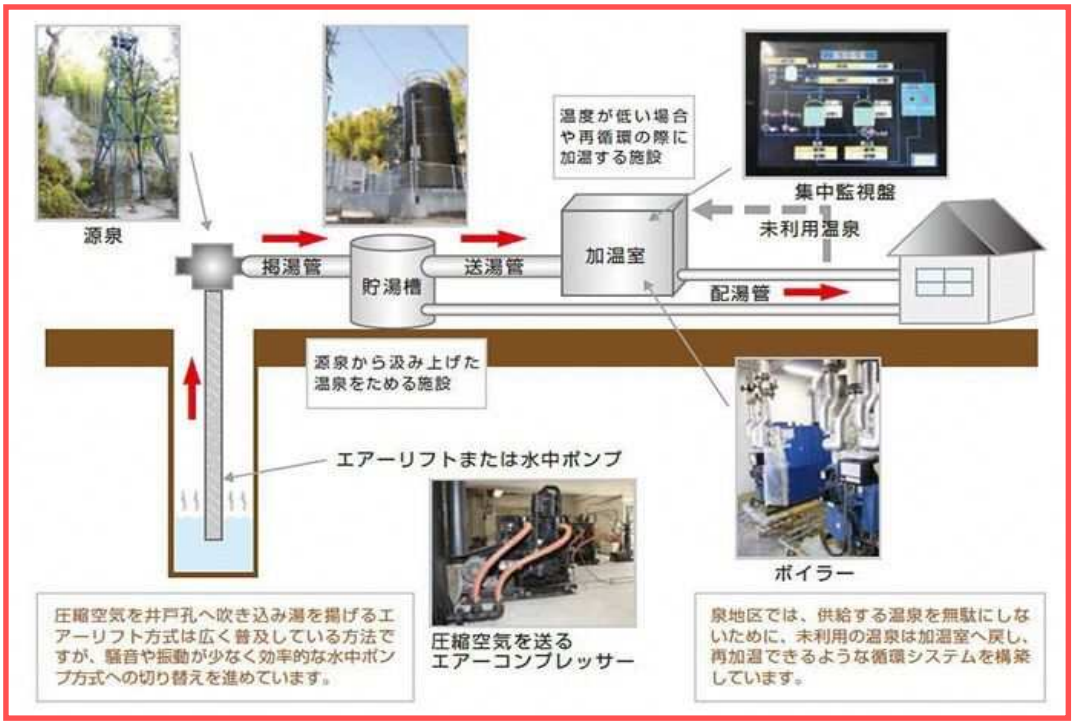
地区	貯湯槽名	所在地	容 積（㎥）	構 造	築造年度	備　考
市街地	第１野中山	上宿町　558-32	15.0	木製	平成27年度改築	第１野中山湯
	成瀬湯	〃　530-11	5.0	FRP	平成22年度改築	成瀬湯
	熱海１号	〃　474-8	100.0	FRP	平成8年度	青沼湯　青木湯
	熱海１３号	〃　807-7	60.0	RC	昭和27年度	
	古河湯	咲見町　1999-10	50.0	RC	昭和46年度	古河湯　第４野中山湯
	熱海２号	〃　245-18	18.0	RC	昭和36年度	※不使用
	熱海１０号	福道町　741-2	37.0	RC	昭和16年度	
	狩場	水口町　828-3	30.0	RC	平成13年5月受贈	
	成田山	〃　811-8	35.0	RC	昭和32年度	※不使用
	大谷湯	〃　818-1	57.0	RC		大谷湯　※未使用
	第２山科湯	清水町　1038-8	3.0	FRP		第２山科湯
	錦館湯	水口町　1051-5	－	RC		錦館湯
	小麦田湯	清水町　393-8	18.0	RC	昭和23年度	小麦田湯
	熱海７号	〃　381-11	45.0	RC	昭和38年度	※不使用
	熱海４号	中央町　866-1	26×2	FRP	昭和53年度	
	熱海８号	〃　866-1	200.0	RC	昭和54年度	野村湯
	河原湯	銀座町　356-6	30.0	FRP	平成17年度改築	河原湯
	熱海１２号	〃　316-11	81.0	RC	昭和38年度	※不使用
	渚湯	渚町　346-7	20.0	FRP	平成8年度	第１渚湯　第２渚湯
小嵐	曽我湯	小嵐町　1560-14	100.0	FRP	平成4年度	曽我湯
	第１小嵐湯	〃　1568-4	18.0	FRP	平成25年度改築	※不使用
	第２小嵐湯	桜町　1658-8	76.0	RC	昭和40年度	第６小嵐湯　第５小嵐湯
	第３小嵐湯	桜木町　1961-35	36.0	RC	昭和35年度	第３小嵐湯
	第４小嵐湯	〃　1619-15	5.0	FRP	昭和48年度	※不使用
	小林湯	昭和町　1262-32	15.0	FRP	昭和52年度	※不使用
西山	来の宮１・２号	西山町　586-1	100/200	RC/FRP	昭和30・平成10年度	来の宮湯
	西山新１号	〃　588-5	200.0	FRP	昭和63年度	※不使用
	西山２・３号	〃　606-1	54.0	RC	昭和26年度	山田湯
	西山４号	〃　608-1	54.0	RC		※不使用
	西山５・６号	〃　605-48	83.0	RC	昭和41年度	
	西山７号（その1）	〃　1761-15	50.0	FRP	昭和56年度	第２竹の沢湯（休止）
	西山７号（その2）	〃　1761-15	25.0	FRP	平成12年度	
	西山８号	〃　1763-311	15.0	RC	昭和49年度	※不使用
	西山９号	〃　1763-4	40.0	RC	昭和43年度	
	西山９号県道	〃　1763-29	3.0	FRP	平成12年度受贈	※不使用
	西山１０号	〃　635-25	42.0	RC	昭和26年度	西山湯
	西山１１号	〃　576-6	10.0	FRP	平成16年度改築	楠湯
	西山１２号	〃　575-4	12.0	RC	昭和37年度	※不使用
	大槻２号	〃　629-9	20.0	FRP	平成16年度改築	大槻湯
	日本鋼管湯	西熱海町1丁目　635-30	40.0	FRP	平成24年度受贈	日本鋼管湯
八幡山	八幡山	熱海　1992-1	35.0	RC	昭和36年度	
	釜ヶ根	〃　1993-378	15.0	FRP	平成16年度改築	
南熱海	和田木	下多賀　202-2	120.0	RC	昭和43年度	網代温泉
	和田木（新）	下多賀			令和7年度	※未供用
	第１和田木	〃　436-8	19.0	FRP	平成25年度改築	網代温泉　第１和田木湯
	第４和田木	〃　405-7	27.0	RC	昭和38年度	※不使用
	多賀加温室	〃　993-1	100×2	FRP	平成元年度	網代温泉　第１和田木湯
泉	泉加温室	泉　415-160	100×2	FRP	昭和49年度	泉１号・２号 南湯河原１号・２号

３）動力室・加温室（動力）一覧

設置場所	設置機器	形式及び性能		用　　途
竹の沢動力室 (西山7号貯湯槽)	コンプレッサー	平山HSD62型　№6531	7.5 kw	第2竹の沢湯揚湯
	ラインポンプ	エバラ　50LPD51.5E	1.5 kw	西山7号～5号配湯用
	ラインポンプ	グルンドフォス　CRN15-6	5.5 kw	西山7号循環
	ラインポンプ	グルンドフォス　CRN15-4	4.0 kw	西山7号～9号送湯用
西山5号ポンプ室	ラインポンプ	グルンドフォス　CRN15-8	7.5 kw	西山5･6号～7号送湯用(№1)
(西山5･6号貯湯槽)	ラインポンプ	グルンドフォス　CRN15-8	7.5 kw	西山5･6号～7号送湯用(№2)
来の宮ポンプ室 (来の宮加温室)	ラインポンプ	グルンドフォス　CRN15-6	11.0 kw	来の宮湯～西山5･6号送湯用(№1)
	ラインポンプ	グルンドフォス　CRN15-6	11.0 kw	来の宮湯～西山5･6号送湯用(№2)
	ラインポンプ	エバラ　65LPD51.5E	1.50 kw	来の宮湯RC～来の宮湯1号送湯用
	ラインポンプ	グルンドフォス　CRN15-4	4.0 kw	来の宮湯揚湯用
	コンプレッサー	三和　　3S20AB－P7.5	7.5 kw	来の宮湯源泉用
	真空式温水機	日本サーモエナー HGFL-400AN(ボイラー型式)	2基	LPガス
西山動力室	コンプレッサー	三和　　3S20AB－P7.5	7.5 kw	楠湯揚湯用
	コンプレッサー	三和　　3S20AB－P7.5	7.5 kw	山田湯揚湯用
	コンプレッサー	三和　　3S20AB－P7.5	7.5 kw	立石湯揚湯用
日本鋼管湯	コンプレッサー	三和　　3S50A－P11	11.0 kw	日本鋼管湯揚湯用
	コンプレッサー	三和　　3S20AB－P7.5	7.5 kw	西山湯揚湯用
長田湯動力室	コンプレッサー	KOHWA.TEC　KNT-75-1	7.5 kw	長田湯揚湯用
大槻湯	水中ポンプ	グルンドフォス　SP5A-42	3.7 kw	大槻湯揚湯用
小麦田湯動力室	コンプレッサー	平山HSD62型　№	5.5 kw	小麦田湯揚湯用
	ラインポンプ	グルンドフォス　CRN32-4	7.5 kw	小麦田湯配湯循環用
市街地10号貯湯槽	ラインポンプ	エバラ　50LPD5.75E	0.75 kw	10号貯湯槽～第1野中山貯湯槽
大谷湯動力室	コンプレッサー	平山HSD62型　№5249	5.5 kw	大谷湯揚湯用　※未使用
成瀬湯動力室	コンプレッサー	平山HSD62型　№6218	7.5 kw	成瀬湯揚湯用
	ラインポンプ	グルンドフォス　CRN15－2	2.2 kw	成瀬湯貯湯槽～熱海1号･13号
第1野中山動力室	コンプレッサー	三和　　3S20AB－P7.5	7.5 kw	第1野中山湯揚湯用
八方苑湯	水中ポンプ	グルンドフォス　SP7-28	3.7 kw	八方苑湯揚湯用
第4野中山湯	コンプレッサー	三和　　3S20AB－P7.5	7.5 kw	第4野中山湯揚湯用
第2野中山湯動力室	コンプレッサー	コベルコ　CM6PD-5H	5.5 kw	第2野中山湯揚湯用　油冷式
市街地1号動力室	ラインポンプ	グルンドフォス　CRN32-1-1	1.5 kw	4～8号送湯用
	ラインポンプ	グルンドフォス　CRN32-1-1	1.5 kw	4～8号送湯用
	コンプレッサー	コベルコ　AS4P-5H	3.7 kw	青木湯揚湯用　油冷式
青沼湯動力室	コンプレッサー	コベルコ　AS4P-5H	3.7 kw	青沼湯揚湯用　油冷式
	コンプレッサー	コベルコ　AS4P-5H	3.7 kw	野村湯揚湯用　油冷式

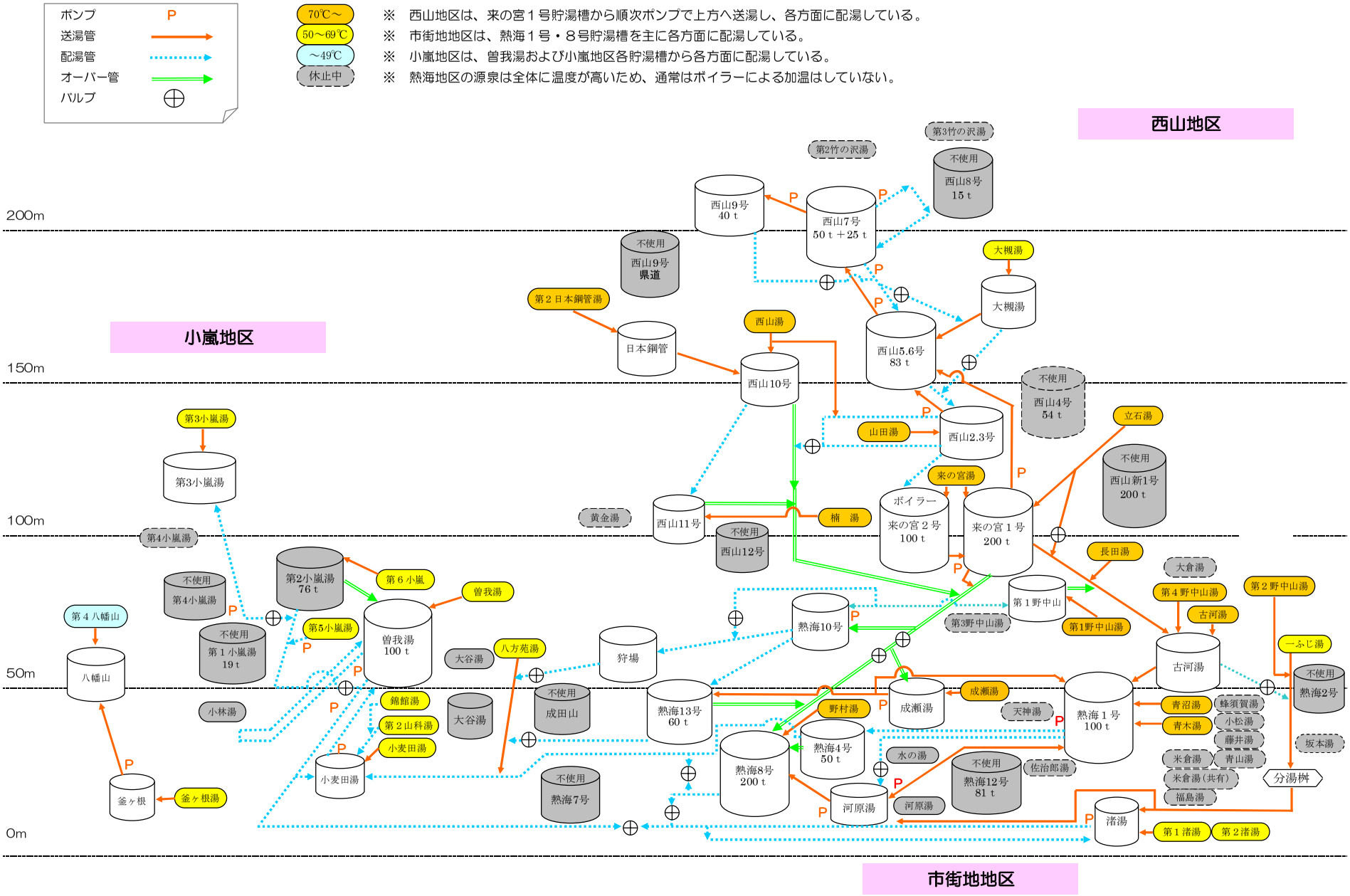
設置場所	設置機器	形式及び性能		用　　途
水の湯	コンプレッサー	コベルコ　AS4P-5H	3.7 kw	水の湯揚湯用　油冷式　※未使用
古河湯動力室	コンプレッサー	コベルコ　AS4P-5H	3.7 kw	古河湯揚湯用　油冷式
第2山科湯動力室	コンプレッサー	日立 5.5P-14VP5	5.5 kw	第2山科湯揚湯用
	ラインポンプ	エバラ　50LPD51.5E	1.5 kw	第2山科湯～小麦田送配湯用
一ふじ湯動力室	コンプレッサー	平山HSD62型　№6373	7.5 kw	一ふじ湯揚湯用
渚湯動力室	コンプレッサー	平山HSD52型　№6339	3.7 kw	第1渚湯揚湯用　予備用
	コンプレッサー	コベルコ　AS4P-5H	3.7 kw	第1渚湯揚湯用
	コンプレッサー	平山HSD52型　№4833	3.7 kw	第2渚湯揚湯用
	ラインポンプ	エバラ　80LPD51.5E	1.5 kw	渚湯配湯循環用ポンプ
河原湯	水中ポンプ	グルンドフォス　SQE3-55	0.85 kw	河原湯揚湯用
	ラインポンプ	グルンドフォス　CRN15－3	3.0 kw	河原湯～1号貯湯槽送湯用
	ラインポンプ	グルンドフォス　CRN10－4	1.5 kw	河原湯貯湯槽～8号貯湯槽送湯用
曽我湯動力室	水中ポンプ	グルンドフォス　SP5A-42	3.7 kw	曽我湯揚湯用
	ラインポンプ	グルンドフォス　CRN15－6	5.5 kw	曽我湯～第2小嵐湯貯湯槽送湯用
	ラインポンプ	グルンドフォス　CRN5-10	1.5 kw	曽我湯配湯用
錦館動力室	水中ポンプ	グルンドフォス　SP9-19	3.7 kw	錦館湯揚湯用
第3小嵐動力室	水中ポンプ	グルンドフォス　SP7-40	5.5 kw	第3小嵐湯揚湯用
第4小嵐動力室	ラインポンプ	グルンドフォス　CRN3-10	0.4 kw	第2小嵐湯貯湯槽～第4小嵐湯貯湯槽
	ラインポンプ	グルンドフォス　CRN15-4	4.0 kw	第4小嵐湯貯湯槽～第3小嵐湯貯湯槽
第5小嵐源地・ポンプ	ラインポンプ	グルンドフォス　CRN15-2	2.2 kw	第2小嵐送配湯用
	水中ポンプ	グルンドフォス　SP5A-42	3.7 kw	第5小嵐湯揚湯用
第6小嵐源池・ポンプ	水中ポンプ	グルンドフォス　SP5A-42	3.7 kw	第6小嵐湯～第2小嵐貯湯槽送湯用
八幡山湯動力室	コンプレッサー	三和　　3S50AB－P11	11.0 kw	八幡山湯揚湯用
釜ヶ根動力室	水中ポンプ	グルンドフォス　SP7-28	3.7 kw	釜ヶ根湯揚湯用
	ラインポンプ	グルンドフォス　CRT16-6	5.5 kw	釜ヶ根湯貯湯槽～八幡山貯湯槽送湯用
第1和田木湯	水中ポンプ	グルンドフォス　SP14-20	5.5 kw	第1和田木湯揚湯用
	配湯用ポンプ	グルンドフォス　CRT16-6	5.5 kw	和田木湯循環用
	配湯用ポンプ	グルンドフォス　CRN32-2	4.0 kw	第1和田木南支所配湯用
	ラインポンプ	グルンドフォス　CRT16-8	7.5 kw	第1和田木湯～多賀加温室送湯用
第3和田木湯	水中ポンプ	グルンドフォス　SP17-10GS	5.5 kw	第3和田木湯揚湯用　※未使用
第4和田木動力室	コンプレッサー	平山HSD73型　№4824	11.0 kw	第4和田木湯揚湯用　休泉
	ラインポンプ	エバラ　50LPD51.5E	1.5 kw	第4和田木地区循環
	温水機	長府ボイラー　MG-55LS		55,000kcal/h 灯油　故障不可
和田木加温室	ラインポンプ	グルンドフォス　CRT16-4	4.0 kw	和田木神社線循環
	ラインポンプ	エバラ　80LPD52.2E	2.2 kw	和田木本線循環

設置場所	設置機器	形式及び性能		用　　途
多賀加温室	タービンポンプ	グルンドフォス　CRT16-8	7.5 kw	長浜地区循環用(No.1)
	タービンポンプ	グルンドフォス　CRT16-8	7.5 kw	長浜地区循環用(No.2)
	タービンポンプ	グルンドフォス　CRT16-6	5.5 kw	中野地区循環用(No.1)
	タービンポンプ	グルンドフォス　CRT16-6	5.5 kw	中野地区循環用(No.2)
	加熱循環ポンプ	グルンドフォス　CRT16-3	3.0 kw	ボイラー加熱循環用(No.1)
	加熱循環ポンプ	グルンドフォス　CRT16-3	3.0 kw	ボイラー加熱循環用(No.2)
	真空式温水機	日本サーモエナー GFL-400AP(ボイラー型式)	2基	LPガス
網代片町ポンプ室	ラインポンプ	グルンドフォス　CRT16-8	7.5 kw	網代温泉～和田木加温室送湯用
小山台中継ポンプ室	ラインポンプ	グルンドフォス　CRT16-4	4.0 kw	小山台配湯中継ポンプ
泉1号湯動力室	水中ポンプ	DSH6AN×15ST	5.5 kw	泉1号湯揚湯用　※未使用
泉2号湯	コンプレッサー	三和　　3S50AB－P11	11.0 kw	泉2号湯揚湯用
泉動力室	コンプレッサー	KOHWA.TEC　KNT-75-1	7.5 kw	組合2号揚湯用
	ラインポンプ	グルンドフォス　CRN15-8	7.5 kw	組合動力室～泉加温室送湯用(No.1)
	ラインポンプ	グルンドフォス　CRN15-8	7.5 kw	組合動力室～泉加温室送湯用(No.2)
	ラインポンプ	グルンドフォス　CRN15-8	7.5 kw	源泉タンク～泉加温室送湯用(No.1)
泉加温室	ラインポンプ	グルンドフォス　CRN15-8	7.5 kw	泉ヶ丘配湯(No.1)
	ラインポンプ	グルンドフォス　CRN15-8	7.5 kw	泉ヶ丘配湯(No.2)
	バルク貯槽	カグラベーパーテック㈱ BAiO-50E	2基	LPガス供給設備

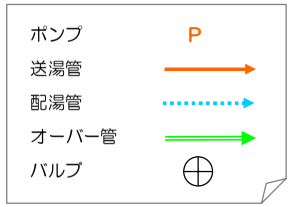


4）主要配管系統図

熱海地区主要配管系統図



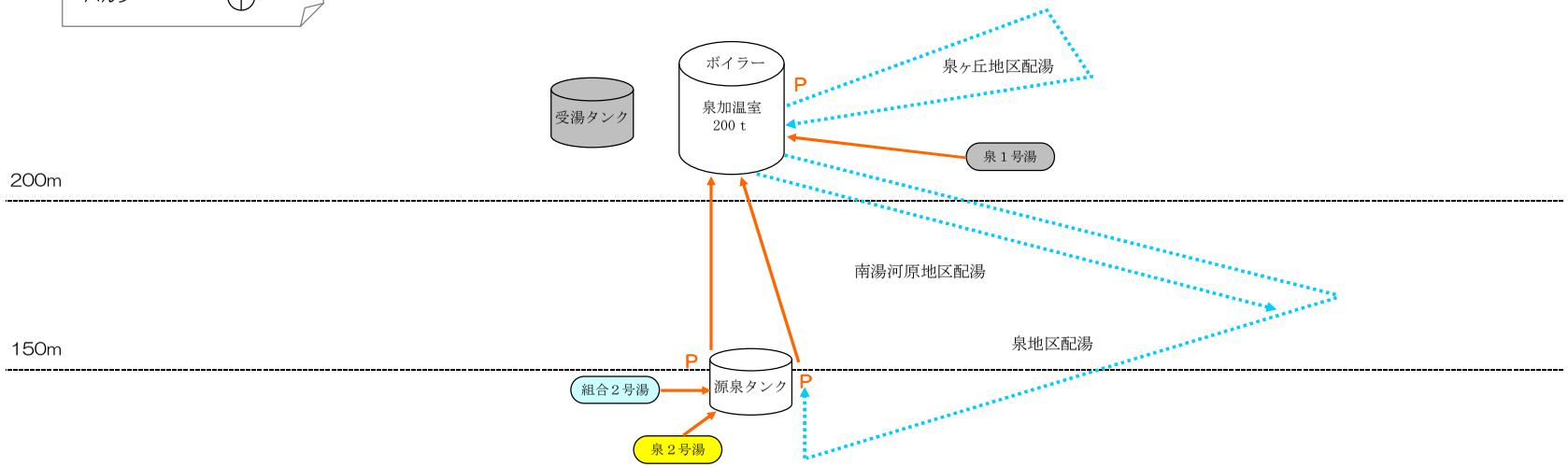
泉地区主要配管系統図



70℃～
50～69℃
～49℃
休止中

※　2源泉を源泉タンクに集めた後、ポンプで泉加温室貯湯槽へ送られる。もう１源泉は泉加温室貯湯槽へ送られる。

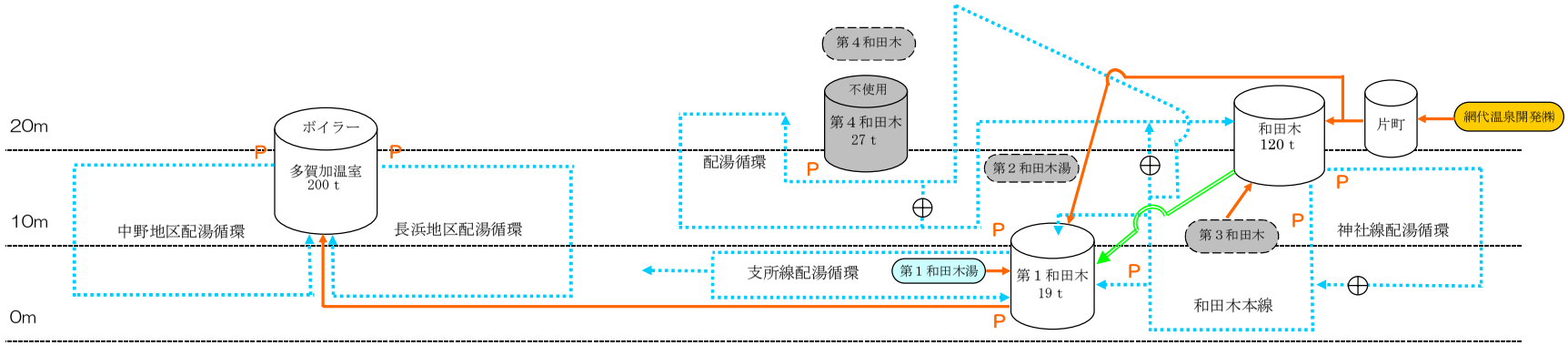
※　3源泉分を加温室で加温し、3地区へ配湯している。特に泉１号湯は、温度が非常に低いため加温に要する費用が大きい。



南熱海地区主要配管系統図

※　和田木の系統は、網代温泉開発㈱から購入している温泉を主に第１和田木湯と混合し、高温で塩分の強い温泉を配湯している。

※　第１和田木から多賀加温室へポンプで送り、加温して長浜・中野地区へ配湯している。



第５章　温泉事業統計

1-1）温泉料金の変遷（昭和25年4月～昭和48年3月）

	種類	用途	種別	基本使用量	基本料金					
					昭和25年4月～昭和26年10月	昭和26年11月～昭和35年9月	昭和35年10月～昭和36年3月	昭和36年4月～昭和37年3月	昭和37年4月～昭和46年3月	昭和46年4月～昭和48年3月
基本料金	普通供給	自家用	甲種	40㎥以下	250円	325円	741円	917円	972円	1,720円
			乙種	40㎥以下	375円	500円	1,120円	1,380円	1,450円	2,240円
		営業用	甲種	60㎥以下	600円	800円	1,823円	2,241円	2,400円	－
				80㎥以下	－	－	－	－	－	4,160円
			乙種	90㎥以下	900円	1,200円	2,923円	3,605円	3,828円	－
				120㎥以下	－	－	－	－	－	6,720円
		団体用	甲種	100㎥以下	200円	260円	722円	891円	935円	935円
			乙種	100㎥以下	300円	400円	1,031円	1,272円	1,336円	1,336円
	短期供給			100㎥以下	750円	2,000円	3,500円	3,500円	5,000円	8,700円
	特別供給（自己温泉送湯量）			250㎥以下	225円	1,500円	2,800円	2,800円	4,000円	7,910円
				500㎥以下	338円	3,000円	5,300円	5,300円	7,500円	13,190円
				501㎥以上	450円	5,000円	8,500円	8,500円	12,000円	21,100円

	種類	用途	種別	超過使用量	昭和25年4月～昭和26年10月	昭和26年11月～昭和35年9月	昭和35年10月～昭和36年3月	昭和36年4月～昭和37年3月	昭和37年4月～昭和46年3月	昭和46年4月～昭和48年3月
超過料金（1㎥につき）	普通供給	自家用	甲種	41㎥～100㎥	6円	8円	19円	23円	25円	43円
			乙種	41㎥～150㎥	6円	10円	28円	35円	37円	56円
		営業用	甲種	61㎥～	7円	9円	23円	29円	30円	－
				81㎥～	－	－	－	－	－	52円
			乙種	91㎥～1,000㎥	8円	10円	25円	31円	32円	－
				121㎥～1,000㎥	－	－	－	－	－	56円
		団体用	甲種	101㎥～	2円	3円	8円	9円	10円	10円
			乙種	101㎥～1,000㎥	4円	5円	11円	13円	14円	14円
	短期供給			101㎥～1,000㎥	5円	15円	35円	35円	50円	87円
	特別供給（自己温泉送湯量）			但し、1ヶ月200㎥を超過できない	5円	15円	26円	26円	37円	65円
					5円	15円	26円	26円	37円	65円
					5円	15円	26円	26円	37円	65円

1-2) 温泉料金の変遷(昭和48年4月～昭和58年11月)

	種類	用途	種別	基本使用量	基本料金			
					昭和48年4月～昭和49年12月22日	昭和49年12月23日～昭和51年3月	昭和51年4月～昭和52年3月	昭和52年4月～昭和58年11月
基本料金	普通供給	自家用	甲種	40㎥以下	3,120円	4,720円	7,120円	8,920円
			乙種	40㎥以下	3,640円	5,320円	8,040円	10,080円
		営業用	甲種	80㎥以下	6,960円	10,640円	16,080円	20,160円
			乙種	120㎥以下	10,920円	16,680円	25,200円	31,680円
		団体用	甲種	100㎥以下	4,435円	4,800円	5,400円	6,500円
			乙種	100㎥以下	4,836円	5,200円	5,800円	7,000円
	臨時供給	自家用	甲種	40㎥以下	3,740円	5,660円	8,540円	10,700円
			乙種	40㎥以下	4,360円	6,380円	9,650円	12,100円
		営業用	甲種	80㎥以下	8,350円	12,770円	19,300円	24,190円
			乙種	120㎥以下	13,100円	20,020円	30,240円	38,020円
		団体用	甲種	100㎥以下	5,320円	5,760円	6,480円	7,800円
			乙種	100㎥以下	5,800円	6,240円	6,960円	8,400円
	短期供給			100㎥以下	12,200円	18,350円	27,720円	34,850円

	種類	用途	種別	超過使用量	昭和48年4月～昭和49年12月22日	昭和49年12月23日～昭和51年3月	昭和51年4月～昭和52年3月	昭和52年4月～昭和58年11月
超過料金(1㎥につき)	普通供給	自家用	甲種	41㎥～80㎥	78円	121円	185円	233円
				81㎥～	156円	169円	259円	326円
			乙種	41㎥～100㎥	91円	135円	209円	263円
				101㎥～	182円	189円	293円	368円
		営業用	甲種	81㎥～560㎥	87円	135円	209円	263円
				561㎥～	174円	203円	314円	395円
			乙種	121㎥～840㎥	91円	144円	220円	278円
				841㎥～	182円	216円	330円	417円
		団体用	甲種	101㎥～1,000㎥	45円	48円	54円	65円
				1,001㎥～	90円	90円	90円	90円
			乙種	101㎥～1,000㎥	49円	52円	58円	70円
				1,001㎥～	98円	98円	98円	98円
	臨時供給	自家用	甲種	41㎥～80㎥	94円	145円	222円	280円
				81㎥～	188円	203円	311円	392円
			乙種	41㎥～100㎥	110円	162円	251円	316円
				101㎥～	220円	227円	351円	442円
		営業用	甲種	81㎥～560㎥	105円	162円	251円	316円
				561㎥～	210円	243円	377円	474円
			乙種	121㎥～840㎥	110円	173円	264円	334円
				841㎥～	220円	260円	396円	501円
		団体用	甲種	101㎥～1,000㎥	54円	58円	65円	78円
				1,001㎥～	108円	108円	108円	108円
			乙種	101㎥～1,000㎥	58円	62円	70円	84円
				1,001㎥～	116円	116円	116円	116円
	短期供給			101㎥～600㎥	122円	158円	242円	306円
				601㎥～	244円	237円	363円	459円

1-3) 温泉料金の変遷(昭和58年12月～平成26年6月)

基本料金

種類	用途	種別	基本使用量	昭和58年12月～平成4年3月	平成4年4月～平成9年4月	平成9年5月～平成20年3月	平成20年4月～平成24年3月	平成24年4月～平成26年6月	備　考
普通供給	自家用	甲種	30㎥以下	11,230円	11,566円	11,791円	13,559円	15,186円	
		乙種	30㎥以下	12,690円	13,070円	13,324円	15,322円	17,161円	H4年4月
	営業用	甲種	80㎥以下	25,730円	26,501円	27,016円	31,068円	34,795円	一律消費税3%転嫁
		乙種	120㎥以下	40,430円	41,642円	42,451円	47,545円	53,249円	
	共同用	甲種	100㎥以下	－	－	－	8,874円	9,939円	H9年5月
		乙種	100㎥以下	－	－	－	9,550円	10,696円	一律消費税5%転嫁
	団体用	甲種	100㎥以下	7,350円	7,570円	7,717円	17,749円	19,878円	
		乙種	100㎥以下	7,910円	8,147円	8,305円	19,101円	21,392円	
臨時供給(H20.3より廃止)	自家用	甲種	30㎥以下	13,660円	14,069円	14,343円	－	－	
		乙種	30㎥以下	15,440円	15,903円	16,212円	－	－	
	営業用	甲種	80㎥以下	30,870円	31,796円	32,413円	－	－	
		乙種	120㎥以下	48,520円	49,975円	50,946円	－	－	
	団体用	甲種	100㎥以下	8,820円	9,084円	9,261円	－	－	
		乙種	100㎥以下	9,500円	9,785円	9,975円	－	－	
臨時供給(H20.3まで「短期供給」)			100㎥以下	44,470円	45,804円	46,693円	53,697円	60,139円	

超過料金(1㎥につき)

種類	用途	種別	超過使用量	昭和58年12月～平成4年3月	平成4年4月～平成9年4月	平成9年5月～平成20年3月	平成20年4月～平成24年3月	平成24年4月～平成26年6月	備　考
普通供給	自家用	甲種	31㎥～70㎥	298円	306円	312円	476円	533円	
			71㎥～	416円	428円	436円	501円	561円	
		乙種	31㎥～90㎥	336円	346円	352円	537円	601円	
			91㎥～	470円	484円	493円	567円	634円	
	営業用	甲種	81㎥～560㎥	336円	346円	352円	497円	556円	
			561㎥～	505円	520円	530円	609円	681円	
		乙種	121㎥～840㎥	355円	365円	372円	510円	571円	
			841㎥～	533円	548円	559円	625円	700円	
	共同用	甲種	101㎥～1,000㎥	－	－	－	105円	117円	
			1,001㎥～	－	－	－	122円	137円	
		乙種	101㎥～1,000㎥	－	－	－	114円	128円	
			1,001㎥～	－	－	－	133円	149円	
	団体用	甲種	101㎥～1,000㎥	74円	76円	77円	210円	235円	
			1,001㎥～	102円	105円	107円	245円	275円	
		乙種	101㎥～1,000㎥	80円	82円	84円	228円	256円	
			1,001㎥～	111円	114円	116円	266円	298円	
臨時供給(H20.3より廃止)	自家用	甲種	31㎥～70㎥	358円	368円	375円	－	－	
			71㎥～	500円	515円	525円	－	－	
		乙種	31㎥～90㎥	404円	416円	424円	－	－	
			91㎥～	564円	580円	592円	－	－	
	営業用	甲種	81㎥～560㎥	404円	416円	424円	－	－	
			561㎥～	605円	623円	635円	－	－	
		乙種	121㎥～840㎥	427円	439円	448円	－	－	
			841㎥～	640円	659円	672円	－	－	
	団体用	甲種	101㎥～1,000㎥	89円	91円	93円	－	－	
			1,001㎥～	122円	125円	128円	－	－	
		乙種	101㎥～1,000㎥	95円	97円	99円	－	－	
			1,001㎥～	131円	134円	137円	－	－	
臨時供給(H20.3まで「短期供給」)			101㎥～600㎥	391円	402円	410円	621円	696円	
			601㎥～	586円	603円	615円	706円	790円	

1-4）温泉料金の変遷（平成26年7月～令和8年4月現在）

	種類	用途	種別	基本使用量	平成26年7月～令和元年12月	令和2年1月～令和6年3月	令和6年4月～	備　考
基本料金	普通供給	自家用	甲種	30㎥以下	15,620円	15,909円	18,932円	
			乙種	30㎥以下	17,651円	17,977円	21,394円	H26年7月
		営業用	甲種	80㎥以下	35,790円	36,452円	43,378円	一律消費税8%転嫁
			乙種	120㎥以下	54,771円	55,785円	66,384円	
		共同用	甲種	100㎥以下	10,223円	10,412円	12,390円	R2年1月
			乙種	100㎥以下	11,001円	11,204円	13,334円	一律消費税10%転嫁
		団体用	甲種	100㎥以下	20,446円	20,824円	24,781円	
			乙種	100㎥以下	22,003円	22,410円	26,669円	
	臨時供給			100㎥以下	61,858円	63,003円	74,974円	

	種類	用途	種別	超過使用量	平成26年7月～令和元年12月	令和2年1月～令和6年3月	令和6年4月～	備　考
超過料金（1㎥につき）	普通供給	自家用	甲種	31㎥～70㎥	548円	558円	664円	
				71㎥～	577円	587円	700円	
			乙種	31㎥～90㎥	618円	629円	750円	
				91㎥～	652円	664円	790円	
		営業用	甲種	81㎥～560㎥	572円	582円	693円	
				561㎥～	700円	712円	849円	
			乙種	121㎥～840㎥	587円	597円	712円	
				841㎥～	720円	733円	873円	
		共同用	甲種	101㎥～1,000㎥	120円	122円	146円	
				1,001㎥～	141円	143円	171円	
			乙種	101㎥～1,000㎥	131円	133円	159円	
				1,001㎥～	153円	155円	185円	
		団体用	甲種	101㎥～1,000㎥	241円	245円	293円	
				1,001㎥～	282円	287円	342円	
			乙種	101㎥～1,000㎥	263円	267円	319円	
				1,001㎥～	306円	311円	371円	
	臨時供給			101㎥～600㎥	716円	729円	867円	
				601㎥～	813円	828円	985円	

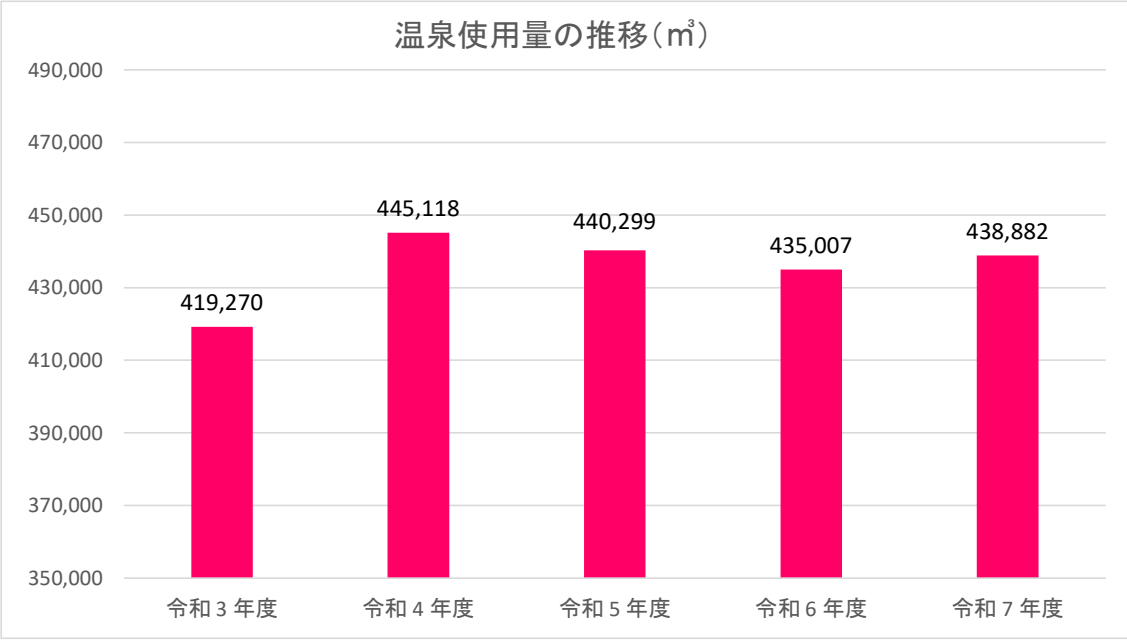
2）供給加入金の変遷（昭和25年4月～令和8年4月現在）

	種類	用途	種別	浴槽容積	（税抜価格）						参考
					昭和25年4月～昭和26年10月	昭和26年11月～昭和31年3月	昭和31年4月～昭和35年3月	昭和35年4月～昭和50年3月	昭和50年4月～平成20年3月	平成20年4月～	供給加入金（税込価格）
基本料金	普通供給	自家用	甲種	0.5㎥まで	22,500円	50,000円	100,000円	290,000円	430,000円	430,000円	473,000円
				1.0㎥まで	26,250円	80,000円	160,000円	460,000円	690,000円	690,000円	759,000円
				超過数量1㎥につき	11,250円	35,000円	70,000円	200,000円	300,000円	300,000円	330,000円
			乙種	0.5㎥まで	30,000円	80,000円	160,000円	460,000円	690,000円	690,000円	759,000円
				1.0㎥まで	49,500円	130,000円	260,000円	750,000円	1,130,000円	1,130,000円	1,243,000円
				超過数量1㎥につき	15,750円	50,000円	100,000円	290,000円	430,000円	430,000円	473,000円
		営業用	甲種	0.5㎥まで	24,750円	100,000円	200,000円	580,000円	900,000円	900,000円	990,000円
				1.0㎥まで	29,250円	150,000円	260,000円	750,000円	1,340,000円	1,340,000円	1,474,000円
				超過数量1㎥につき	13,600円	35,000円	70,000円	200,000円	300,000円	300,000円	330,000円
			乙種	0.5㎥まで	36,000円	130,000円	300,000円	860,000円	1,170,000円	1,170,000円	1,287,000円
				1.0㎥まで	58,900円	180,000円	360,000円	1,040,000円	1,630,000円	1,630,000円	1,793,000円
				超過数量1㎥につき	18,000円	50,000円	100,000円	290,000円	430,000円	430,000円	473,000円
		共同用	甲種	0.5㎥まで	－	－	－	－	－	45,000円	49,500円
				1.0㎥まで	－	－	－	－	－	50,000円	55,000円
				超過数量1㎥につき	－	－	－	－	－	8,000円	8,800円
			乙種	0.5㎥まで	－	－	－	－	－	75,000円	82,500円
				1.0㎥まで	－	－	－	－	－	95,000円	104,500円
				超過数量1㎥につき	－	－	－	－	－	16,000円	17,600円
		団体用	甲種	0.5㎥まで	6,000円	6,000円	12,000円	35,000円	45,000円	90,000円	99,000円
				1.0㎥まで	7,000円	7,000円	14,000円	40,000円	50,000円	100,000円	110,000円
				超過数量1㎥につき	1,000円	1,000円	2,000円	6,000円	8,000円	16,000円	17,600円
			乙種	0.5㎥まで	10,000円	10,000円	20,000円	58,000円	75,000円	150,000円	165,000円
				1.0㎥まで	13,000円	13,000円	26,000円	75,000円	95,000円	190,000円	209,000円
				超過数量1㎥につき	2,000円	2,000円	4,000円	12,000円	16,000円	32,000円	35,200円

※平成18年4月1日から平成21年3月31日までの間、用途が自家用に限り10万円の減額措置を実施。

3）月別温泉使用量の推移

	令和 3 年度		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度		令和 7 年度	
	件数（件）	使用量（㎥）	件数（件）	使用量（㎥）	件数（件）	使用量（㎥）	件数（件）	使用量（㎥）	件数（件）	使用量（㎥）
4 月	1,287	37,031	1,272	39,732	1,254	41,712	1,241	42,163	1,200	43,608
5 月	1,284	38,070	1,268	40,255	1,251	41,409	1,234	41,856	1,195	42,364
6 月	1,289	36,188	1,270	35,963	1,250	37,336	1,227	36,942	1,194	37,555
7 月	1,287	33,689	1,270	34,903	1,251	35,602	1,221	34,711	1,192	35,266
8 月	1,284	28,896	1,264	31,544	1,249	30,846	1,219	29,819	1,185	29,549
9 月	1,282	28,238	1,266	30,435	1,247	30,155	1,221	29,660	1,182	29,447
10月	1,282	29,063	1,265	30,257	1,248	29,173	1,215	27,733	1,180	28,950
11月	1,277	29,442	1,265	32,375	1,242	30,530	1,147	28,794	1,176	29,962
12月	1,275	33,707	1,255	37,849	1,239	36,158	1,148	34,156	1,173	35,957
1 月	1,272	36,634	1,254	41,501	1,239	39,279	1,209	38,800	1,168	38,489
2 月	1,274	44,641	1,255	46,165	1,240	44,118	1,205	45,331	1,166	44,120
3 月	1,274	43,671	1,254	44,139	1,241	43,981	1,203	45,042	1,162	43,615
合 計	－	419,270	－	445,118	－	440,299	－	435,007	－	438,882
前 年 比 較	－	－	－	25,848	－	△ 4,819	－	△ 5,292	－	3,875



4）地区別及び用途別使用量

（件数は年度末時点を使用）

		令和３年度			令和４年度			令和５年度			令和６年度			令和７年度		
		件数（件）	使用量（㎥）	構成比（%）	件数（件）	使用量（㎥）	構成比（%）	件数（件）	使用量（㎥）	構成比（%）	件数（件）	使用量（㎥）	構成比（%）	件数（件）	使用量（㎥）	構成比（%）
熱海地区	自家用	739	79,648	26.4%	723	78,297	24.2%	716	75,614	23.4%	698	72,047	22.9%	668	71,852	22.3%
	営業用	126	209,501	69.6%	128	234,474	72.6%	129	239,765	74.1%	125	236,869	75.4%	126	244,668	75.9%
	共同用	3	4,489	1.5%	3	4,429	1.4%	3	4,900	1.5%	3	4,190	1.4%	3	5,138	1.6%
	団体用	1	7,100	2.4%	1	5,959	1.8%	1	3,340	1.0%	1	837	0.3%	1	863	0.3%
	臨時短期	0※	400	0.1%	0※	0	0.0%	0	0	0.1%	0	0	0.0%	0	0	0.0%
	計	869	301,138	71.8%	855	323,159	72.6%	849	323,619	73.5%	827	313,943	72.2%	798	322,521	73.5%
南熱海地区	自家用	246	30,324	37.6%	239	28,493	32.1%	232	25,817	32.0%	221	25,092	30.6%	212	23,538	28.7%
	営業用	30	49,363	61.1%	30	59,280	66.8%	31	53,594	66.5%	31	55,418	67.8%	31	57,087	69.9%
	共同用	1	4	0.1%	1	5	0.1%	1	2	0.1%	1	0	0.1%	1	0	0.1%
	団体用	1	997	1.2%	1	1,006	1.1%	1	1,198	1.5%	1	1,222	1.5%	1	1,066	1.3%
	臨時短期	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%
	計	278	80,688	19.2%	271	88,784	19.9%	265	80,611	18.3%	254	81,732	18.8%	245	81,691	18.6%
泉地区	自家用	114	13,511	36.1%	113	13,857	41.8%	111	13,856	38.4%	106	13,207	33.6%	102	12,240	35.3%
	営業用	13	23,933	63.9%	15	19,318	58.2%	16	22,213	61.6%	16	26,125	66.4%	17	22,430	64.7%
	共同用	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%
	団体用	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%
	臨時短期	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%
	計	127	37,444	8.9%	128	33,175	7.5%	127	36,069	8.2%	122	39,332	9.0%	119	34,670	7.9%
総合計	自家用	1,099	123,483	29.5%	1,075	120,647	27.1%	1,059	115,287	26.2%	1,025	110,346	25.4%	982	107,630	24.5%
	営業用	169	282,797	67.4%	173	313,072	70.3%	176	315,572	71.7%	172	318,412	73.2%	174	324,185	73.9%
	共同用	4	4,493	1.1%	4	4,434	1.0%	4	4,902	1.1%	4	4,190	1.0%	4	5,138	1.2%
	団体用	2	8,097	1.9%	2	6,965	1.6%	2	4,538	1.0%	2	2,059	0.5%	2	1,929	0.4%
	臨時短期	0	400	0.1%	0	0	0.0%	0※	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%
	計	1,274	419,270	100%	1,254	445,118	100%	1,241	440,299	100%	1,203	435,007	100%	1,162	438,882	100%

※年度中には件数があったが、年度末には0件となった。

第6章 財務状況

1）比較損益計算書（税抜）

科目		令和3年度			令和4年度		
		決算額	構成比%	前年比%	決算額	構成比%	前年比%
営業収益	温泉供給収益	386,223,574	88.5	100.1	396,128,026	93.2	102.6
	受託工事収益	424,784	0.1	95.6	800,038	0.2	188.3
	その他営業収益	9,009,501	2.1	96.3	10,410,355	2.4	115.5
営業外収益	受取利息	0	0.0	－	0	0.0	－
	供給加入金	29,530,000	6.7	451.5	6,160,000	1.4	20.9
	一般会計からの補助金	5,554,500	1.3	12.0	7,537,000	1.8	135.7
	長期前受金戻入	4,250,807	1.0	125.8	2,887,543	0.7	67.9
	雑収益等	1,297,821	0.3	162.7	1,205,781	0.3	92.9
特別利益		0	0.0	－	0	0.0	－
収益合計		436,290,987	100.0	106.2	425,128,743	100.0	97.4
営業費用	源地揚湯費	189,669,767	54.3	103.1	208,736,141	55.7	110.1
	送配湯費	60,226,056	17.2	96.2	56,501,357	15.1	93.8
	受託工事費	168,693	0.0	56.5	0	0.0	皆減
	総係費	20,310,998	5.8	99.3	24,103,456	6.4	118.7
	減価償却費	69,143,171	19.8	99.8	73,520,064	19.6	106.3
	資産減耗費	8,392,066	2.4	34.7	10,301,346	2.7	122.8
	その他営業費用	0	0.0	皆減	17,000	0.1	皆増
営業外費用	支払利息	1,647,833	0.5	82.4	1,297,941	0.3	78.8
	うち企業債利息	1,647,833		－	1,297,941		－
	雑支出	0	0.0	－	0	0.0	－
特別損失		0	0.0	－	274,277	0.1	皆増
費用合計		349,558,584	100.0	96.4	374,751,582	100.0	107.2
当年度純利益（△純損失）		86,732,403	－	180.5	50,377,161	－	58.0

2）性質別費用構成表

科目		令和3年度			令和4年度		
		決算額	構成比%	前年比%	決算額	構成比%	前年比%
人件費等		16,213,469	4.6	105.4	7,595,505	2.0	46.8
物件費等	燃料費	19,999,011	5.7	69.9	17,620,229	4.7	88.1
	光熱水費	16,744,882	4.8	121.9	16,963,940	4.5	101.3
	委託料	77,525,178	22.2	93.4	93,309,557	24.9	120.4
	修繕費	21,955,378	6.3	85.8	20,944,254	5.6	95.4
	動力費	41,848,388	12.0	113.6	54,010,149	14.4	129.1
	材料費・量湯器	52,263,114	15.0	128.5	55,009,184	14.7	105.3
	温泉買上料	13,665,600	3.9	100.0	13,665,600	3.6	100.0
	その他費用	10,211,277	2.8	103.1	14,335,719	3.7	140.4
	計	254,212,828	72.7	100.9	285,858,632	76.3	112.4
内部留保資金等	減価償却費	69,143,171	19.8	99.8	73,520,064	19.6	106.3
	固定資産除却費・減耗費	8,341,283	2.4	34.5	6,205,163	1.7	74.4
	過年度修正損	0	0.0	－	274,277	0.1	皆増
	計	77,484,454	22.2	82.9	79,999,504	21.4	103.2
支払利息		1,647,833	0.5	82.4	1,297,941	0.3	78.8
費用合計		349,558,584	100.0	96.4	374,751,582	100.0	107.2

（単位:円）

令和5年度			令和6年度			令和7年度		
決算額	構成比%	前年比%	決算額	構成比%	前年比%	決算額	構成比%	前年比%
392,701,630	94.4	99.1	456,994,738	93.8	116.4	457,028,932	85.4	100.0
406,087	0.1	50.8	294,495	0.1	72.5	451,572	0.1	153.3
10,734,227	2.6	103.1	11,122,735	2.3	103.6	10,447,379	2.0	93.9
0	0.0	－	0	0.0	－	0	0.0	－
3,870,000	0.9	62.8	10,927,000	2.2	282.4	18,950,000	3.5	173.4
2,434,000	0.6	32.3	3,586,000	0.7	147.3	43,000,000	8.0	1199.1
2,887,543	0.7	100.0	2,974,478	0.6	103.0	3,321,374	0.6	111.7
2,433,936	0.6	201.9	1,059,945	0.2	43.5	2,127,043	0.4	200.7
314,742	0.1	皆増	536,760	0.1	170.5	0	0.0	皆減
415,782,165	100.0	97.8	487,496,151	100.0	117.2	535,326,300	100.0	109.8
202,153,282	54.5	96.8	242,873,071	55.4	120.1	255,214,978	57.1	105.1
57,993,306	15.7	102.6	72,469,883	16.5	125.0	64,215,651	14.4	88.6
0	0.0	－	19,980	0.0	皆増	54,400	0.0	272.3
21,731,718	5.9	90.2	24,922,490	5.7	114.7	23,512,303	5.3	94.3
79,809,153	21.5	108.6	87,800,764	20.0	110.0	91,601,685	20.5	104.3
7,410,754	2.0	71.9	8,355,683	1.9	112.8	8,978,508	2.0	107.5
0	0.0	皆減	15,000	0.0	皆増	0	0.0	皆減
1,403,509	0.4	108.1	1,805,499	0.4	128.6	2,914,401	0.7	161.4
1,403,509		－	1,805,499		－	2,914,401		－
0	0.0	－	416,667	0.1	皆増	0	0.0	皆減
0	0.0	皆減	0	0.0	－	0	0.0	－
370,501,722	100.0	98.9	438,679,037	100.0	118.4	446,491,926	100.0	101.8
45,280,443	－	89.9	48,817,114	－	107.8	88,834,374	－	182.0

（単位:円）

令和5年度			令和6年度			令和7年度		
決算額	構成比%	前年比%	決算額	構成比%	前年比%	決算額	構成比%	前年比%
8,216,325	2.2	108.2	13,446,651	3.0	163.7	14,887,181	3.3	110.7
18,063,166	4.9	102.5	24,157,658	5.5	133.7	33,798,112	7.6	139.9
10,176,777	2.7	60.0	13,206,617	3.0	129.8	13,493,726	3.0	102.2
86,637,819	23.4	92.8	108,950,729	24.8	125.8	109,521,639	24.5	100.5
24,871,339	6.7	118.8	26,652,315	6.1	107.2	23,681,025	5.3	88.9
40,902,333	11.0	75.7	47,579,041	10.8	116.3	46,906,910	10.5	98.6
68,205,707	18.4	124.0	79,288,518	18.1	116.2	76,191,001	17.1	96.1
13,703,040	3.7	100.3	13,665,600	3.1	99.7	14,191,200	3.2	103.8
11,197,617	3.0	78.1	14,884,549	3.4	132.9	12,211,292	2.7	82.0
273,757,798	73.9	95.8	328,385,027	74.9	120.0	329,994,905	73.9	100.5
79,809,153	21.5	108.6	87,800,764	20.0	110.0	91,601,685	20.5	104.3
7,314,937	2.0	117.9	7,241,096	1.7	99.0	7,093,754	1.6	98.0
0	0.0	皆減	0	0.0	－	0	0.0	－
87,124,090	23.5	108.9	95,041,860	21.7	109.1	98,695,439	22.1	103.8
1,403,509	0.4	108.1	1,805,499	0.4	128.6	2,914,401	0.7	161.4
370,501,722	100.0	98.9	438,679,037	100.0	118.4	446,491,926	100.0	101.8

3）資本的収支計算書（税抜）

科　　目		令和3年度			令和4年度		
		決算額	構成比%	前年比%	決算額	構成比%	前年比%
企業債		10,000,000	100.0	66.7	50,000,000	100.0	500.0
固定資産売却代金		0	0.0	－	0	0.0	－
工事負担金		0	0.0	皆減	0	0.0	－
その他補助金		0	0.0	－	0	0.0	－
資本的収入計		10,000,000	100.0	31.4	50,000,000	100.0	500.0
建設改良費	人件費	16,426,420	10.1	104.5	16,603,443	7.7	101.1
	工事費	71,184,984	43.7	54.1	127,694,295	59.0	179.4
	材料費	731,571	0.4	61.2	2,124,868	0.9	290.5
	委託料	0	0.0	皆減	0	0.0	－
	固定資産購入費	20,972,367	12.9	142.1	18,737,600	8.7	89.3
	その他支出	335,075	0.3	132.6	487,371	0.3	145.5
	計	109,650,417	67.4	66.0	165,647,577	76.6	151.1
企業債償還金		53,180,000	32.6	101.1	50,670,000	23.4	95.3
資本的支出計		162,830,417	100.0	74.4	216,317,577	100.0	132.8
補填財源		資本的収支不足額	152,830,417		資本的収支不足額	166,317,577	
		【補塡財源内訳】			【補塡財源内訳】		
		減債積立金取崩額	53,180,000		減債積立金取崩額	50,670,000	
		損益勘定留保資金	99,650,417		損益勘定留保資金	115,647,577	

（単位：円）

令和5年度			令和6年度			令和7年度		
決算額	構成比%	前年比%	決算額	構成比%	前年比%	決算額	構成比%	前年比%
60,000,000	95.4	120.0	82,000,000	92.9	136.7	148,000,000	100.0	180.5
48,894	0.1	皆増	54,149	0.1	110.7	0	0.0	皆減
2,841,000	4.5	皆増	0	0.0	皆減	0	0.0	－
0	0.0	－	6,203,780	7.0	皆増	0	0.0	皆減
62,889,894	100.0	125.8	88,257,929	100.0	140.3	148,000,000	100.0	167.7
18,373,561	6.4	110.7	19,835,661	9.0	108.0	20,199,567	8.8	101.8
173,449,203	60.6	135.8	133,765,268	60.6	77.1	149,292,272	65.1	111.6
14,043,365	4.9	660.9	4,398,893	1.9	31.3	3,343,419	1.4	76.0
8,223,000	2.9	皆増	2,340,000	1.1	28.5	990,000	0.5	42.3
25,036,927	8.8	133.6	19,650,710	8.9	78.5	20,288,800	8.9	103.2
986,762	0.4	202.5	472,429	0.3	47.9	294,622	0.2	62.4
240,112,818	84.0	145.0	180,462,961	81.8	75.2	194,408,680	84.9	107.7
45,900,000	16.0	90.6	40,400,000	18.2	88.0	34,800,000	15.1	86.1
286,012,818	100.0	132.2	220,862,961	100.0	77.2	229,208,680	100.0	103.8
資本的収支不足額	223,122,924		資本的収支不足額	132,605,032		資本的収支不足額	81,208,680	
【補塡財源内訳】			【補塡財源内訳】			【補塡財源内訳】		
減債積立金取崩額	45,900,000		減債積立金取崩額	40,400,000		減債積立金取崩額	34,800,000	
損益勘定留保資金	177,222,924		損益勘定留保資金	92,205,032		損益勘定留保資金	46,408,680	

4) 比較貸借対照表

（資　産　の　部）

科　　目		令和3年度			令和4年度		
		決算額	構成比%	前年比%	決算額	構成比%	前年比%
有形固定資産	土地	234,195,655	11.0	100.0	234,195,655	11.0	100.0
	建物	68,586,242	3.2	95.0	65,051,989	3.0	94.8
	構築物	1,003,804,120	47.3	98.1	1,083,310,370	50.7	107.9
	機械及び装置	179,193,385	8.4	119.2	214,609,968	10.0	119.8
	車両運搬具	217,736	0.1	47.7	166,930	0.1	76.7
	工具･器具･備品	7,832,456	0.3	101.0	7,224,562	0.3	92.2
	建設仮勘定	27,519,998	1.3	皆増	3,343,068	0.2	12.1
	計	1,521,349,592	71.6	102.2	1,607,902,542	75.3	105.7
無形固定資産		630,600	0.1	50.0	0	0.0	皆減
固定資産計		1,521,980,192	71.7	102.2	1,607,902,542	75.3	105.6
流動資産	現金預金	549,036,383	25.8	100.3	484,280,462	22.6	88.2
	未収金	37,367,910	1.8	133.5	29,660,826	1.4	79.4
	貯蔵品	14,023,891	0.7	138.1	15,471,896	0.7	110.3
	計	600,428,184	28.3	102.6	529,413,184	24.7	88.2
資　産　合　計		2,122,408,376	100.0	102.3	2,137,315,726	100.0	100.7

（負債・資本の部）

科　　目		令和3年度			令和4年度		
		決算額	構成比%	前年比%	決算額	構成比%	前年比%
固定負債	企業債	216,600,000	10.2	84.2	220,700,000	10.3	101.9
	引当金	36,832,038	1.7	65.8	38,507,055	1.8	104.5
	計	253,432,038	11.9	80.9	259,207,055	12.1	102.3
流動負債	企業債	50,670,000	2.3	95.3	45,900,000	2.1	90.6
	未払金	39,035,627	1.8	230.9	28,543,610	1.3	73.1
	引当金	24,165,070	1.1	801.5	2,018,837	0.1	8.4
	その他流動負債	1,329,695	0.1	7.6	380,660	0.1	28.6
	計	115,200,392	5.3	127.1	76,843,107	3.6	66.7
繰延収益計		71,478,423	3.4	94.4	68,590,880	3.2	96.0
負　債　合　計		440,110,853	20.6	91.8	404,641,042	18.9	91.9
資本金	自己資本金	1,457,554,121	68.7	103.7	1,510,734,121	70.7	103.6
	資　本　金　合　計	1,457,554,121	68.7	103.7	1,510,734,121	70.7	103.6
資本剰余金	工事負担金	1,224,228	0.1	100.0	1,224,228	0.1	100.0
	受贈財産評価額	5,410,415	0.3	100.0	5,410,415	0.3	100.0
	その他補助金	0	0.0	－	0	0.0	－
	計	6,634,643	0.4	100.0	6,634,643	0.4	100.0
利益剰余金	減債積立金	78,196,356	3.7	93.8	114,258,759	5.3	146.1
	未処分利益剰余金	139,912,403	6.6	139.0	101,047,161	4.7	72.2
	計	218,108,759	10.3	118.5	215,305,920	10.0	98.7
剰　余　金　合　計		224,743,402	10.7	117.9	221,940,563	10.4	98.8
資　本　合　計		1,682,297,523	79.4	105.4	1,732,674,684	81.1	103.0
負債資本合計		2,122,408,376	100.0	102.3	2,137,315,726	100.0	100.7

（単位:円）

令和5年度			令和6年度			令和7年度		
決算額	構成比%	前年比%	決算額	構成比%	前年比%	決算額	構成比%	前年比%
243,195,655	10.8	103.8	243,195,655	10.6	100.0	243,195,655	9.3	100.0
70,037,035	3.1	107.7	66,728,461	2.9	95.3	63,669,744	2.4	95.4
1,138,780,004	50.6	105.1	1,173,306,026	50.9	103.0	1,165,776,698	44.9	99.4
292,437,364	13.0	136.3	308,206,768	13.4	105.4	320,827,013	12.3	104.1
1,493,672	0.1	894.8	2,578,119	0.2	172.6	2,018,608	0.1	78.3
6,675,646	0.2	92.4	10,558,571	0.4	158.2	9,765,012	0.4	92.5
8,223,000	0.4	246.0	41,635,728	1.8	506.3	136,669,839	5.3	328.3
1,760,842,376	78.2	109.5	1,846,209,328	80.2	104.8	1,941,922,569	74.7	105.2
0	0.0	－	0	0.0	－	0	0.0	－
1,760,842,376	78.2	109.5	1,846,209,328	80.2	104.8	1,941,922,569	74.7	105.2
420,753,944	18.7	86.9	409,456,485	17.8	97.3	594,487,665	22.8	145.2
48,967,285	2.2	165.1	23,654,907	1.0	48.3	42,656,249	1.6	180.3
19,823,528	0.9	128.1	24,060,524	1.0	121.4	23,978,518	0.9	99.7
489,544,757	21.8	92.5	457,171,916	19.8	93.4	661,122,432	25.3	144.6
2,250,387,133	100.0	105.3	2,303,381,244	100.0	102.4	2,603,045,001	100.0	113.0

（単位:円）　　（単位:円）

令和5年度			令和6年度			令和7年度		
決算額	構成比%	前年比%	決算額	構成比%	前年比%	決算額	構成比%	前年比%
240,300,000	10.7	108.9	287,500,000	12.5	119.6	402,000,000	15.4	139.8
39,590,221	1.7	102.8	38,579,925	1.7	97.4	40,647,990	1.6	105.4
279,890,221	12.4	108.0	326,079,925	14.2	116.5	442,647,990	17.0	135.7
40,400,000	1.8	88.0	34,800,000	1.5	86.1	33,500,000	1.3	96.3
80,662,940	3.6	282.6	40,098,263	1.7	49.7	139,780,183	5.4	348.6
2,466,910	0.1	122.2	3,378,785	0.1	137.0	3,289,000	0.1	97.3
467,598	0.1	122.8	478,391	0.1	102.3	332,928	0.1	69.6
123,997,448	5.6	161.4	78,755,439	3.4	63.5	176,902,111	6.9	224.6
68,544,337	3.0	99.9	71,773,639	3.1	104.7	67,888,285	2.6	94.6
472,432,006	21.0	116.8	476,609,003	20.7	100.9	687,438,386	26.5	144.2
1,561,404,121	69.3	103.4	1,607,304,121	69.7	102.9	1,647,704,121	63.3	102.5
1,561,404,121	69.3	103.4	1,607,304,121	69.7	102.9	1,647,704,121	63.3	102.5
1,224,228	0.1	100.0	1,224,228	0.1	100.0	1,224,228	0.0	100.0
5,410,415	0.2	100.0	5,410,415	0.2	100.0	5,410,415	0.2	100.0
0	0.0	－	0	0.0	－	0	0.0	－
6,634,643	0.3	100.0	6,634,643	0.3	100.0	6,634,643	0.2	100.0
118,735,920	5.3	103.9	123,616,363	5.4	104.1	137,633,477	5.3	111.3
91,180,443	4.1	90.2	89,217,114	3.9	97.8	123,634,374	4.7	138.6
209,916,363	9.4	97.5	212,833,477	9.3	101.4	261,267,851	10.0	122.8
216,551,006	9.7	97.6	219,468,120	9.6	101.3	267,902,494	10.2	122.1
1,777,955,127	79.0	102.6	1,826,772,241	79.3	102.7	1,915,606,615	73.5	104.9
2,250,387,133	100.0	105.3	2,303,381,244	100.0	102.4	2,603,045,001	100.0	113.0

5）財務分析比較表

項目		算出方法	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
構成比率	固定資産構成比率	固定資産 / 総資産 ×100	%	71.71	75.23	78.25	80.15	74.60
	（指標の見方）	一般的に比率が低い方が、柔軟な経営が可能とされる。施設型の事業では高い比率となる。						
	自己資本構成比率	自己資本 / 負債資本合計 ×100	%	82.63	84.28	82.05	82.42	76.20
	（指標の見方）	投資財源を企業債に頼る時期は比率が低下するが、料金へシフトすることにより上昇傾向となる。						
財務比率	固定比率	固定資産 / 自己資本 ×100	%	86.78	89.27	95.36	97.24	97.90
	（指標の見方）	自己資本がどの程度固定資産へ投下しているか判断する指標。100%超は、企業債を活用した投資状況といえる。						
	流動比率	流動資産 / 流動負債 ×100	%	521.20	688.95	394.80	580.50	373.72
	（指標の見方）	短期債務に対する支払能力を示しており、100%を下回る場合、不良債務が発生していることとなる。						
	当座比率	現金預金＋(未収金－貸倒引当金) / 流動負債 ×100	%	509.03	668.82	378.82	549.94	360.17
	（指標の見方）	短期の負債に対する 支払い能力を判断する指標。分子、分母の大小にも注視する必要がある。						
回転率	自己資本回転率	営業収益－受託工事収益 / (期首自己資本＋期末自己資本)÷2	回	0.23	0.23	0.22	0.25	0.24
	（指標の見方）	期中において、自己資本に対してどの程度営業収益があったかを判断する指標であり、営業活動の活発度を知ることができる。						
	流動資産回転率	営業収益－受託工事収益 / (期首流動資産＋期末流動資産)÷2	回	0.67	0.72	0.79	0.99	0.99
	（指標の見方）	流動資産が効率的に営業収益へ結びついているか判断するものだが、保有する流動資産の多寡により変動することがある。						
	未収金回転率	営業収益－受託工事収益 / (期首未収金＋期末未収金)÷2	回	12.10	12.13	10.26	12.89	12.87
	（指標の見方）	一般的にこの率が高いほど未収期間が短く、早く回収される傾向にある。						
収益率	総資本利益率	当年度経常損益 / (期首総資本＋期末総資本)÷2 ×100	%	4.13	2.38	2.05	2.12	3.66
	（指標の見方）	事業の経常的な収益力を総合的に示す指標であり、この率が高いと総合的な収益性が高いことを意味する。						
	総収支比率	総収益 / 総費用 ×100	%	124.81	113.44	112.22	111.13	119.90
	（指標の見方）	収益性を見る際の代表的な指標。この率が高いほど経常利益率が高く、100%未満は経常損失が生じたことを示す。						

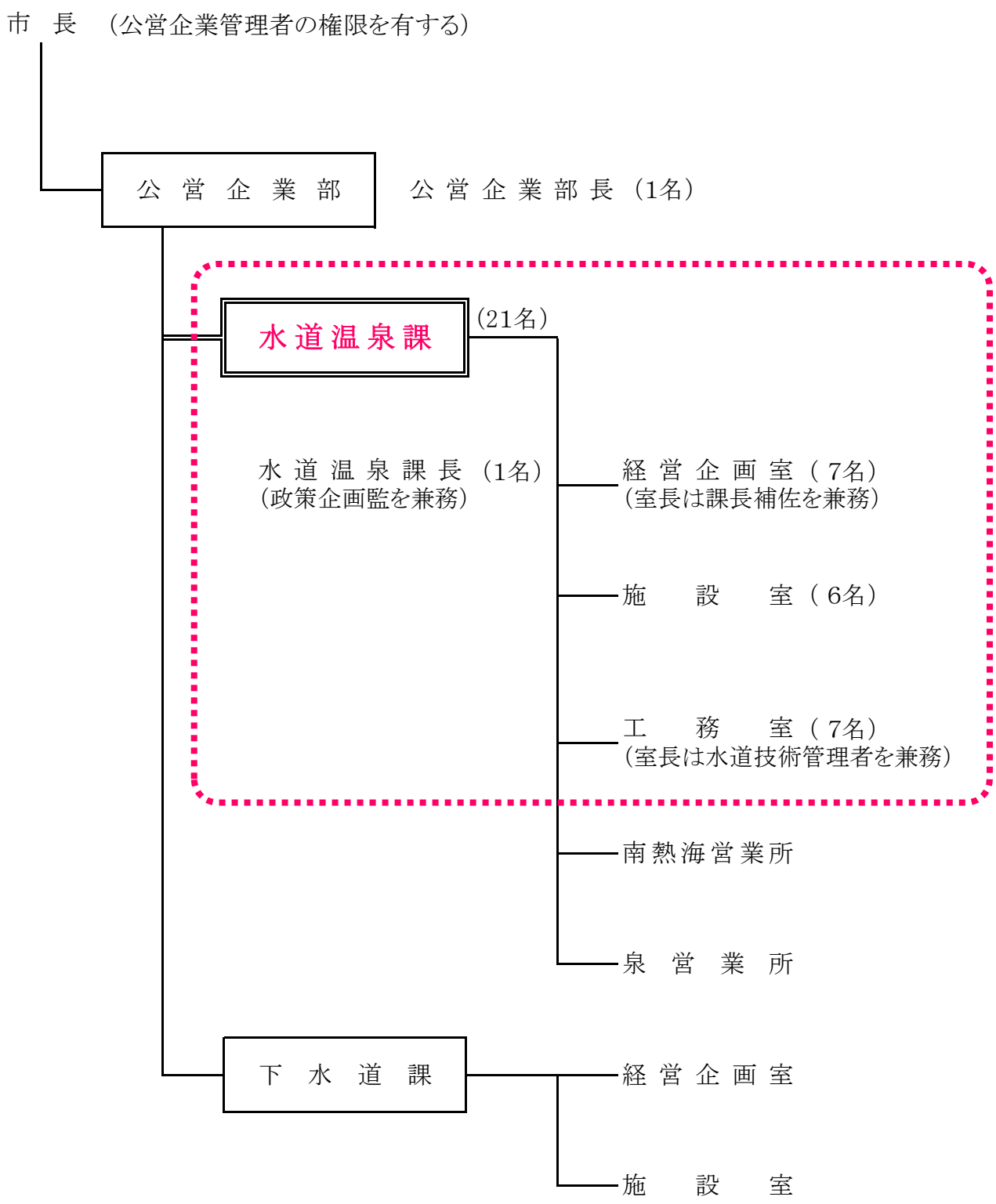
○ 資金不足比率、実質資金不足比率 ・・・ なし

◇総資産 ＝ 固定資産 ＋ 流動資産 ＋ 繰延資産
（＝ 総資本 ＝ 固定負債 ＋ 流動負債 ＋ 繰延収益 ＋ 資本金 ＋ 剰余金）
◇自己資本 ＝ 自己資本金 ＋ 剰余金 ＋ 評価差額等 ＋ 繰延収益
◇当年度出庫貯蔵品 ＝ 期首貯蔵品 ＋ 当年度使用材料額 ＋ 当年度資産減耗額 － 期末貯蔵品

6）業務実績表

区　　分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
行政区域内人口	34,973 人	34,301 人	33,603 人	33,000 人	32,614 人
計画給湯人口	15,000 人	15,000 人	15,000 人	15,000 人	15,000 人
現在給湯人口	9,347 人	9,200 人	9,105 人	8,826 人	8,525 人
現在給湯件数	1,274 件	1,254 件	1,241 件	1,203 件	1,162 件
一日温泉湧出能力	3,365 ㎥	3,347 ㎥	3,947 ㎥	3,653 ㎥	3,751 ㎥
一日平均揚湯量	2,578 ㎥	2,303 ㎥	2,472 ㎥	2,147 ㎥	2,214 ㎥
年間揚湯量	940,861 ㎥	840,668 ㎥	904,642 ㎥	783,692 ㎥	808,256 ㎥
一日平均配湯量	2,866 ㎥	2,591 ㎥	2,760 ㎥	2,435 ㎥	2,502 ㎥
年間総配湯量　A	1,045,981 ㎥	945,788 ㎥	1,010,050 ㎥	888,812 ㎥	913,376 ㎥
年間総有収湯量 B	419,270 ㎥	445,118 ㎥	440,299 ㎥	435,007 ㎥	438,882 ㎥
有収率 B／A	40.1 %	47.1 %	43.6 %	48.9 %	48.1 %
送配湯管布設延長	64,785.9 m	64,785.9 m	64,785.9 m	64,785.9 m	64,785.9 m
職員数	5 人	4 人	4 人	5 人	5 人
損益勘定所属職員数　C	2 人	1 人	1 人	2 人	2 人
職員一人当給湯量 B／C	209,635 ㎥	445,118 ㎥	440,299 ㎥	217,504 ㎥	219,441 ㎥
供給単価（1㎥あたり）	910円37銭	879円89銭	881円88銭	1,040円72銭	1,031円82銭
給湯原価（1㎥あたり）	823円19銭	834円81銭	834円92銭	1,001円56銭	1,009円65銭

職　員　機　構　図　（令和8年4月1日 現在）



― 令和７年度版 ―

熱海市温泉事業のあらまし

令和８年１０月 発行

編集・発行　熱海市 公営企業部 水道温泉課
協力　熱海温泉組合



静岡県 熱海市